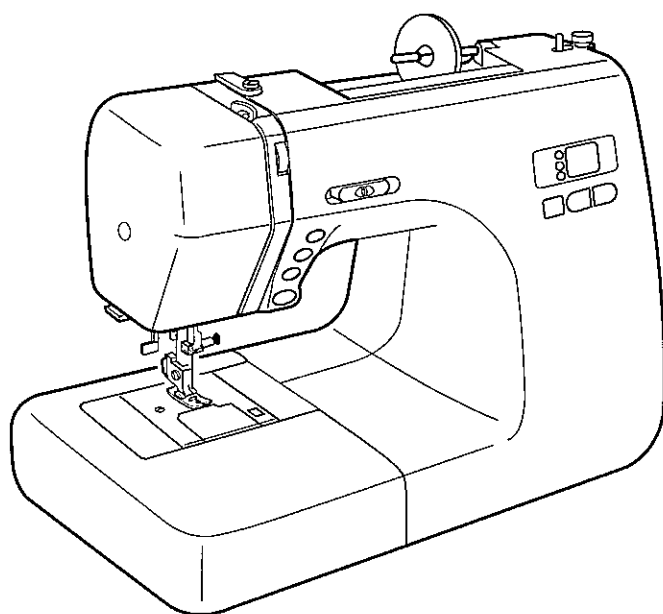


使い方の手びき

《取扱説明書》

EQULE
エクール **T400**



JANOME

安全上のご注意

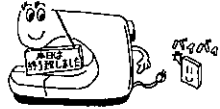
- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのもので、いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示

 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	---

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 警告 感電・火災の恐れがあります。	
 必ず実行 一般家庭用、交流電源 100V でご使用ください。	 必ずプラグを抜く 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 

 注意 感電・火災・けがの原因となります。	
 分解禁止 お客様自身での分解、改造はしないでください。	 必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものを使用してください。針が押さえにあたり危険です。
 接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。	 必ず実行 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 禁止 ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が曲がったり、折れたりして危険です。	 必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
 禁止 曲がっている針、先のつぶれた針は、使用しないでください。	 必ずプラグを抜く 以下のことをするときは、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板を交換するとき ・ランプを交換するとき (ランプが冷えてから行ってください。) ・ミシンのお手入れを行うとき
 禁止 フットコントローラーの上に物をのせないでください。	
 禁止 電源コードは、付属の電源コード以外を使用しないでください。	
 注意 お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。	 必ずプラグを抜く ミシン・フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
 必ず実行 プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。	

目次

●各部のなまえ	2	●直線状のぬい目	21
●標準付属品	3	●ジグザグぬい	22
●補助テーブル	3	★ぬい目の幅・長さをかえるとき	22
●電源のつなぎ方	4	●たち目かがり	23～24
★スタート/ストップボタンを使用する場合	4	●ボタンホール	25～31
★フットコントローラーを使用する場合	4	★ボタンホールの種類	25
●スタート/ストップボタン	5	★ボタンホール# 16 (スクエア) のぬい	26～28
●速さの調節の仕方	5	★ボタンホールの幅・ぬい目の長さ をかえるとき	29
★スピードコントロールつまみ	5	★ボタンホール重ねぬい	29
★フットコントローラー	5	★ボタンホール# 17 (ラウンド) ・ # 18 (キーホール) のぬい	30
●操作ボタンの主なはたらき	6～7	★ボタンホール# 19 (ニット) ・ # 20 (ニット) ・ # 21 (薄地用) のぬい	31
●ドロップつまみの使い方	8	●芯入りボタンホール	32
●押さえ上げの使い方	8	●ファスナー付け	33～34
●押さえの取りかえ方	9	●ボタン付け	35
●押さえホルダーの外し方、付け方	9	●ダーニング (つくろいぬい)	36
●針の取りかえ方	10	●かんぬき止めぬい	37
●布に適した糸や針を選ぶ目安	10	●まつりぬい	38
●糸調子の合わせ方	11	●シェルタック	39
●下糸の準備をしましょう	12～14	●密着模様ぬい	39
★ボビンを取り出します	12	●アップリケ	40
★糸こまをセットします	12	●パッチワーク	40
★ボビンに糸を巻きます	13	●止めぬいボタンを使った飾りぬい	41
★ボビンを内がまにセットします	14	●模様の形の整え方	42
●上糸の準備をしましょう	15～17	●ミシンのお手入れ	43
★上糸のかけ方	15	★かまと送り歯の掃除	43
★糸通しの使い方	16	★内がまと針板の組み付け	43
★下糸を引きあげます	17	●ランプの取りかえ方	44
●直線ぬい	18～19	●こんな表示が出た場合	45
★ぬい始め	18	★ブザー音の種類	45
★厚手の布端のぬい始め	18	●ミシンの調子が悪いときの直し方	46
★ぬい方向の変更	18		
★ぬい終わり	19		
●針板ガイドラインの利用	19		
●ぬい目の長さをかえるとき	20		
●針位置をかえるとき	20		

お取り扱いについてのお願い

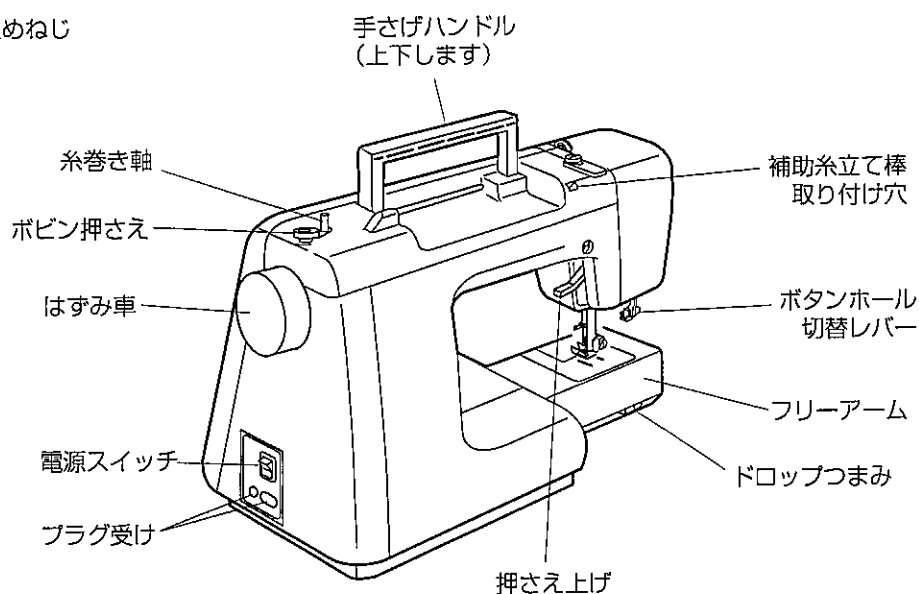
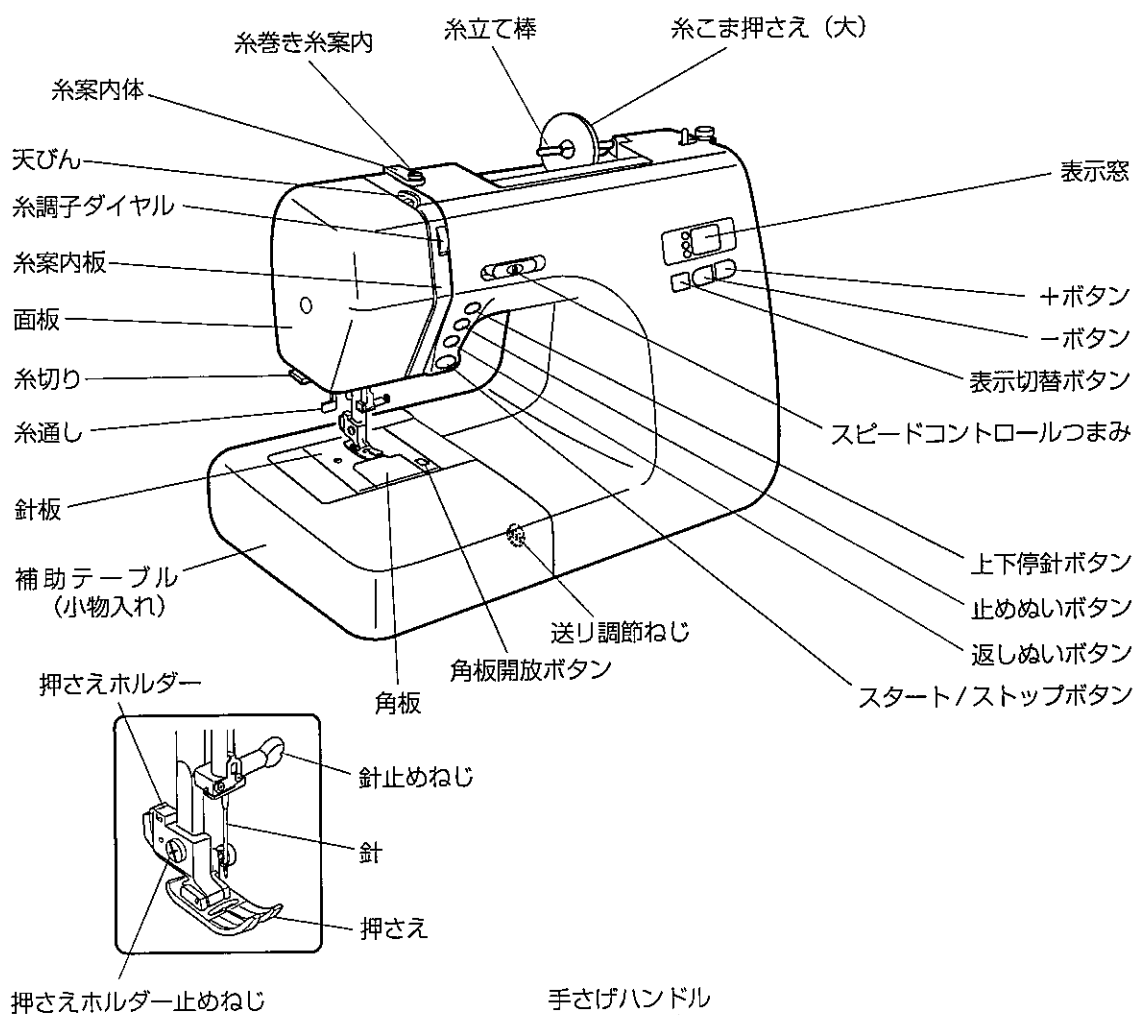
■ご使用の前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

■いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなどの衝撃を与えないでください。

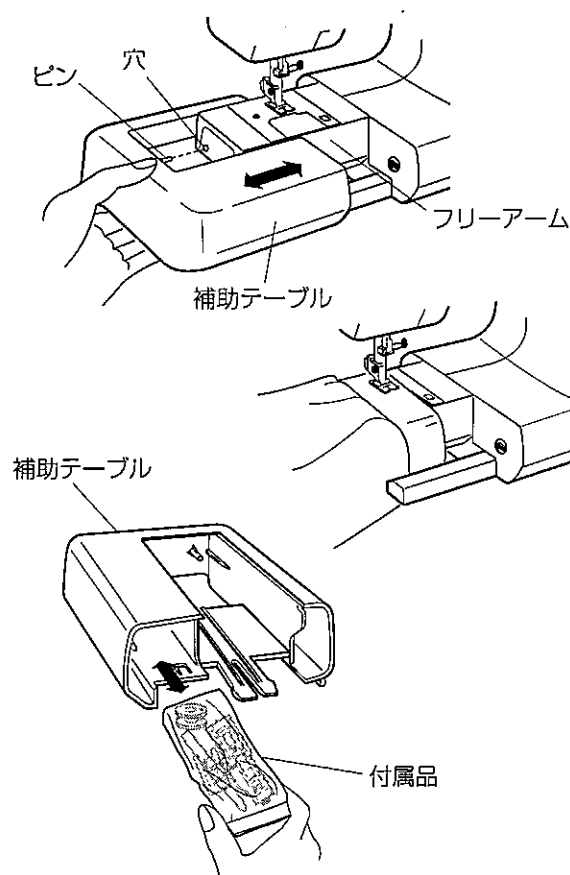
●各部のなまえ



●標準付属品



●補助テーブル



【補助テーブルの外し方、付け方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れて取り付けます。

【フリーアームの使い方】

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

【付属品の収納場所】

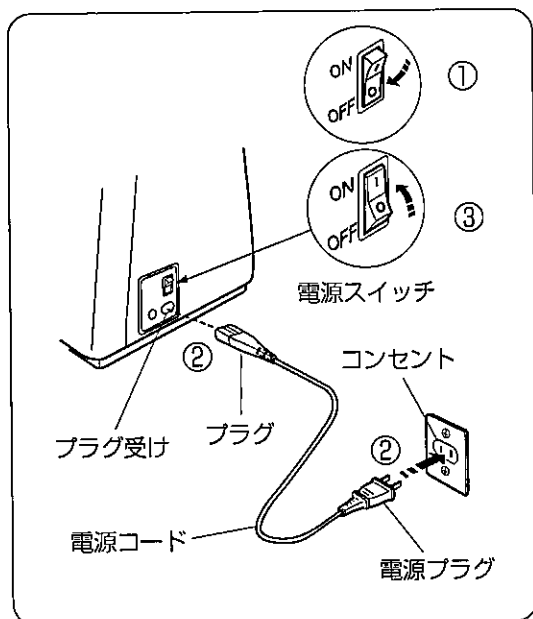
押さえ等の小物は、補助テーブルに収納します。

●電源のつなぎ方

⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり火災の原因になります。

★スタート/ストップボタンを使用する場合



【電源投入時】

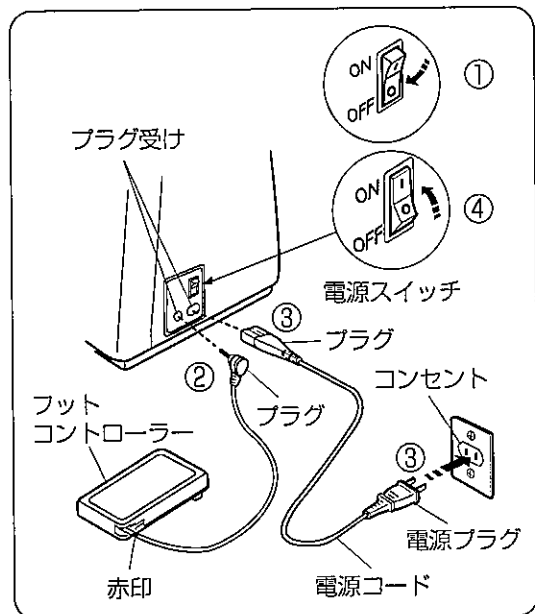
1 秒間ミシンの設定を行ったあと表示窓に初期画面(直線模様 # 01)を表示します。



初期画面が表示されると、ミシンの準備が完了です。

★フットコントローラーを使用する場合

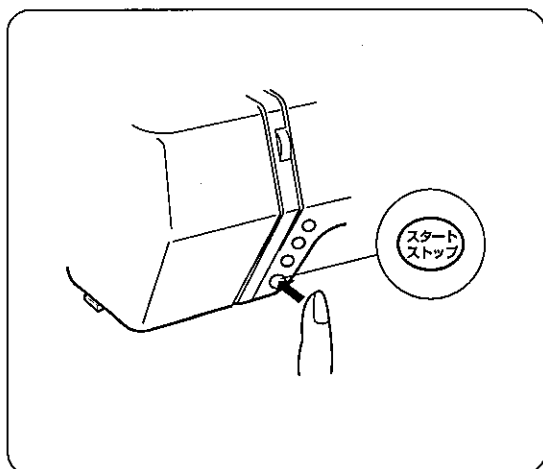
…フットコントローラーは、
モデルによりオプションになります。…



- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- ② フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

※ フットコントローラーのコードは赤印以上引き出さないでください。引き出し過ぎると断線する場合があります。

●スタート/ストップボタン



ボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。

もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。

※ ボタンを押してスタートさせたとき、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。

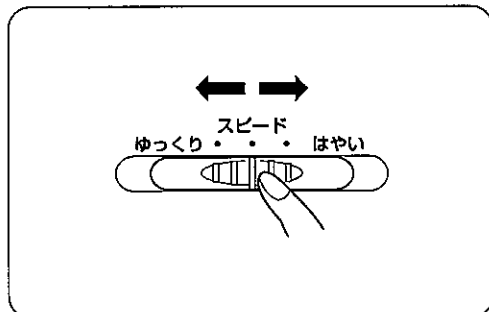
ボタン押し止めするときも、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。

※ フットコントローラーを接続しているときは、「スタート/ストップボタン」は使用できません。

●速さの調節の仕方

ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

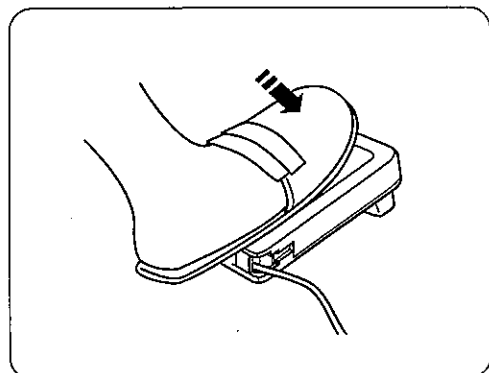
★スピードコントロールつまみ



スピードコントロールつまみは、「スタート/ストップボタン」使用時のぬう速さを調節できます。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱい踏み込んだときの最高速度を調節できます。

★フットコントローラー



フットコントローラーの踏みかげんでぬう速さが調節できます。

深く踏む→速くなる

浅く踏む→遅くなる

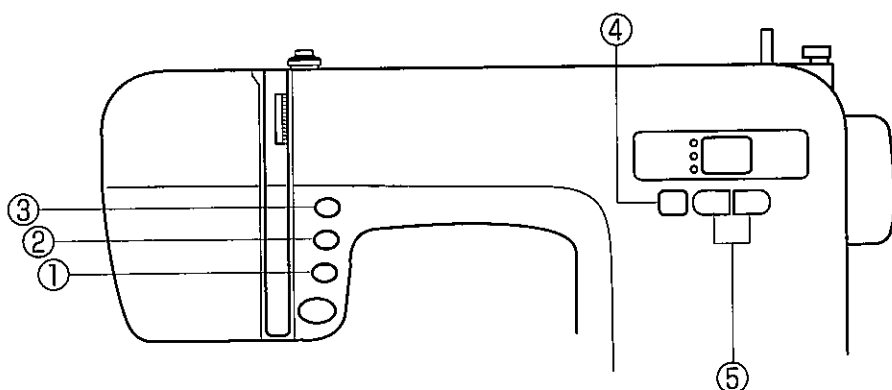
※ スピードコントロールつまみの位置は、通常「はやい」の位置で使用し、細かいものをぬうときなど、ぬう速さを遅くしたい場合は「ゆっくり」側にセットすると便利です。

⚠ 注意

フットコントローラーの上に物をのせないでください。

火災、けが、故障の原因になります。

●操作ボタンの主なはたらき



①返しぬいボタン



【ミシン運転中】

模様 $\begin{smallmatrix} 01 \\ \downarrow \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 02 \\ \downarrow \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 08 \\ \text{zigzag} \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 09 \\ \text{zigzag} \end{smallmatrix}$ は、ボタンを押しているあいだは返しぬいをします。

その他の模様は、ボタンを押すとすぐに止めぬいをして自動的に止まります。

【ミシン停止中】

(フットコントローラーを接続していないときのみ)

模様 $\begin{smallmatrix} 01 \\ \downarrow \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 02 \\ \downarrow \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 08 \\ \text{zigzag} \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 09 \\ \text{zigzag} \end{smallmatrix}$ は、ミシンが動いていない状態でボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはなすと止まります。

②止めぬいボタン



模様 $\begin{smallmatrix} 01 \\ \downarrow \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 02 \\ \downarrow \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 08 \\ \text{zigzag} \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 09 \\ \text{zigzag} \end{smallmatrix}$ は、ボタンを押すとすぐに止めぬいをして自動的に止まります。

その他の模様は、ボタンを押すと、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

※ ぬう前にボタンを押しておくと、模様を1つぬって自動的に止まります。

③上下停針ボタン



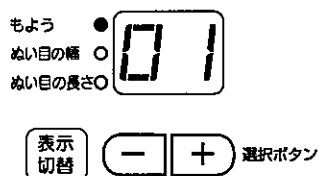
ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置を上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。(電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。)

④表示切替ボタン

⑤選択ボタン

(1) もよう表示



(2) ぬい目の幅表示



(3) ぬい目の長さ表示



「表示切替ボタン」を押して、「もよう」・「ぬい目の幅」・「ぬい目の長さ」のどれか設定を変更したい表示を選び、「+」と「-」の「選択ボタン」で設定を変更します。

(選ばれている表示のランプが点灯しています。)

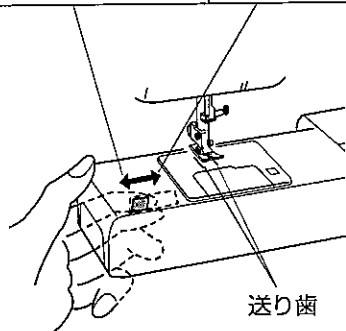
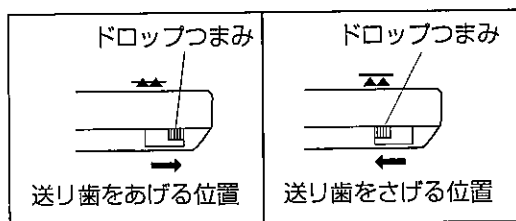
(1) もよう表示 「+ボタン」「-ボタン」で模様番号を選ぶことができます。
ぬい中は選べません。

(2) ぬい目の幅表示 「+ボタン」「-ボタン」でぬい目の幅をかえることができます。
ぬい中でもかえることができます。
22 ページをごらんください。

※ 直線状のぬい模様では、針位置をかえることができます。
20 ページをごらんください。

(3) ぬい目の長さ表示 「+ボタン」「-ボタン」でぬい目の長さをかえることができます。
ぬい中でもかえることができます。
20・22 ページをごらんください。

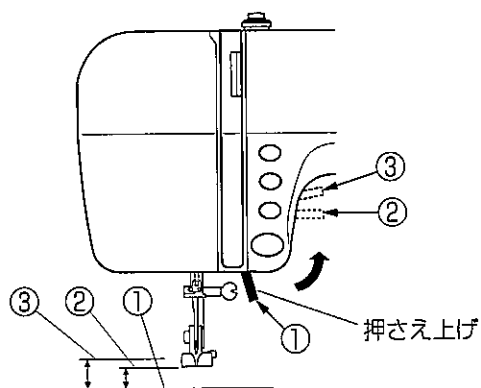
●ドロップつまみの使い方



ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットします。

※ 終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認してください。

●押さえ上げの使い方



押さえ上げで、押さえのあげ下げを行います。普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚物の布を入れるときなどに便利です。

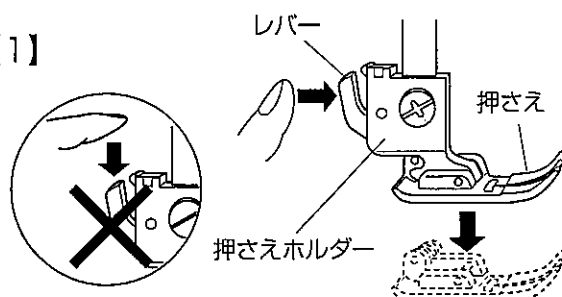
- ①さげた位置 ぬうときは、さげておきます。
- ②普通にあげた位置 布の取り出しや押さえの交換のときにあげます。
- ③さらにあげた位置 厚い布などが入れやすくなります。

●押さえの取りかえ方

⚠ 注意

- ・押さえの交換は電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。
- ・押さえは、模様に合ったものを使用してください。押さえが合っていないと、針が押さえにあたり、けがの原因になります。

【1】

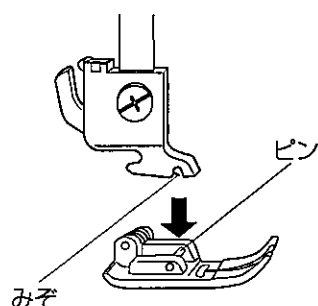


【1】 外し方

針をあげ、押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。

※ レバーは上から押さないでください。
故障の原因になります。

【2】



【2】 付け方

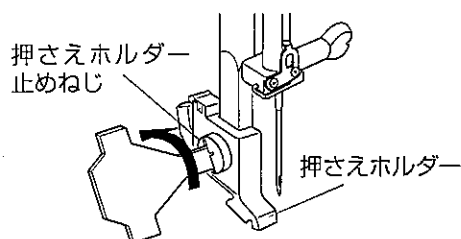
押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

●押さえホルダーの外し方、付け方

⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し、取り付けは、電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

【1】

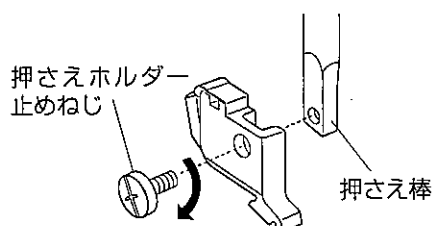


※ ミシンのお手入れなどのときに外します。

【1】 外し方

針をあげ、押さえ上げをあげて、押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

【2】



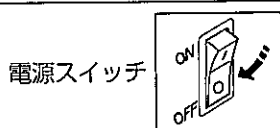
【2】 付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

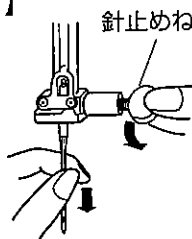
●針の取りかえ方

⚠ 注意

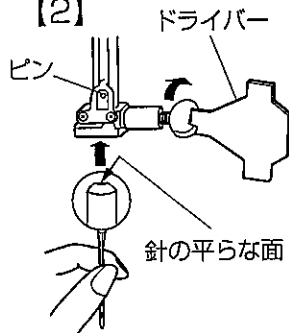
針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがの原因になります。



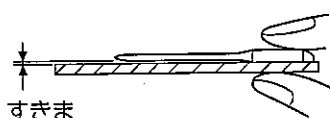
【1】



【2】



【3】



※ 針をあげ、押さえ上げをさげます。

【1】外し方

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

※ 正しく針が付けられていないと、糸通し
ができないだけでなく、針がゆるんで針
折れして危険です。

【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物(針板など)に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

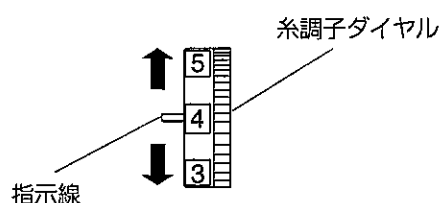
布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90番	9番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹糸 50番 綿糸 60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿糸 50番	14番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
		ポリエステル 30番 綿糸 30番	16番

※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※ 原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目とびしやすい布地などには、ストレッチ針を使用すると防止効果があります。(市販SP針も同様の効果があります。)

●糸調子の合わせ方



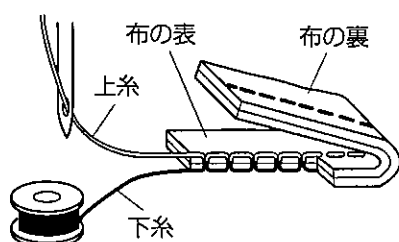
上糸と下糸のまじわるバランス（糸調子）は、糸調子ダイヤルで調節します。

糸調子は、糸や布の種類、ぬい方などによってかわりますので、糸調子ダイヤルで調節してください。

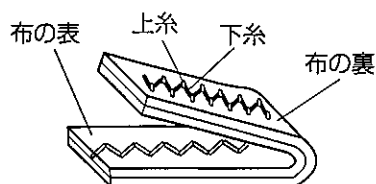
※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

【1】

〈直線ぬいの場合〉



〈ジグザグぬいの場合〉

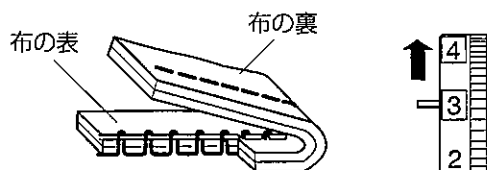


【1】 バランスのとれた糸調子

直線ぬいの場合、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

ジグザグぬいの場合、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

【2】

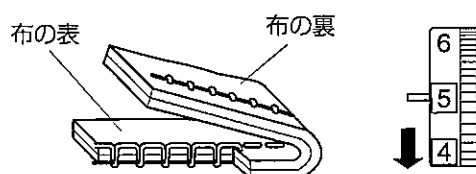


【2】 上糸が強すぎる時

下糸が布の表に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、小さな数値を指示線に合わせます。

【3】



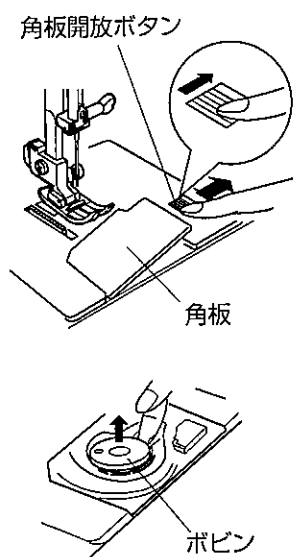
【3】 上糸が弱すぎる時

上糸が布の裏に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、大きな数値を指示線に合わせます。

●下糸の準備をしましょう

★ボビンを取り出します

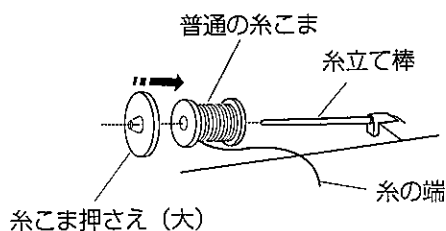


角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

※ ボビンは、必ず専用ボビンをご使用ください。
他の製品を使用すると、ぬい不良または故障の原因になります。

★糸こまをセットします

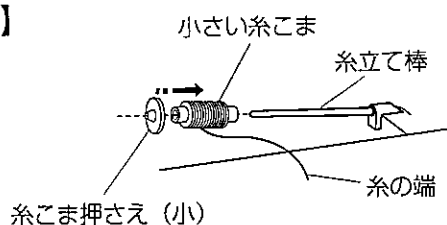
【1】



【1】 普通の糸こまのとき

糸の端が糸こまの下から手前になるようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ (大) で糸こまを押さえます。

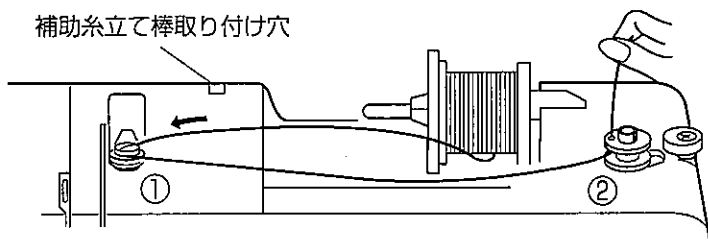
【2】



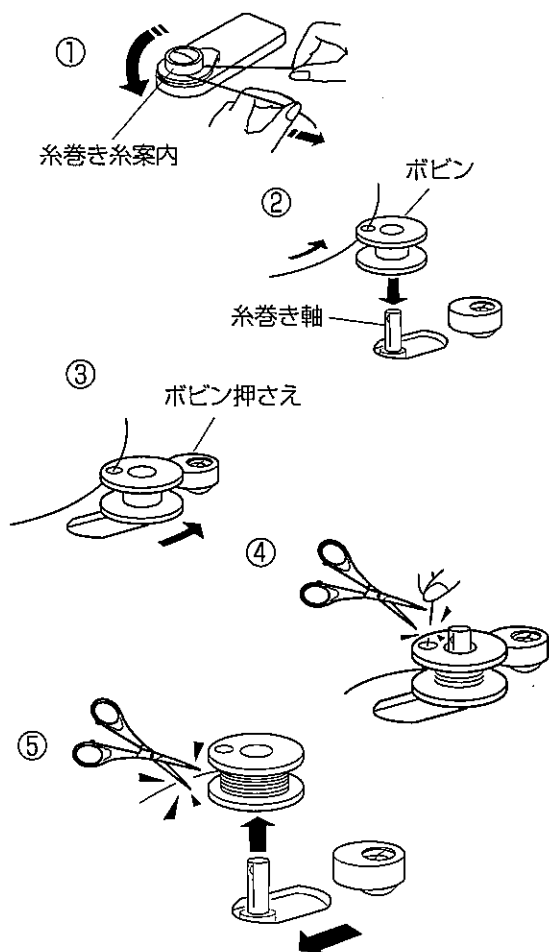
【2】 小さい糸こまのとき

糸の端が糸こまの下から手前になるようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ (小) で糸こまを押さえます。

★ボビンに糸を巻きます



※ 糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを「はい」の位置にセットしてください。



① 糸巻き糸案内に糸をかけます。

② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

③ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。
表示窓には、糸巻き位置にセットされたことを示す **SP** が表示されます。

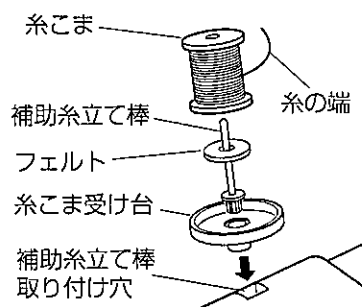
④ 糸の端をつまんだままミシンをスタートし、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止め、つまんでいる糸を穴のきわで切ります。

⑤ ふたたびミシンをスタートします。
巻き終わるとボビンの回転が止まるので、ミシンを止めます。
糸巻き軸をもどし、糸巻き軸からボビンを外し、糸を切ります。

※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてからもどしてください。

※ 安全のために、糸巻きはミシンがスタートしてから約2分間で自動停止します。

【補助糸立て棒の利用】

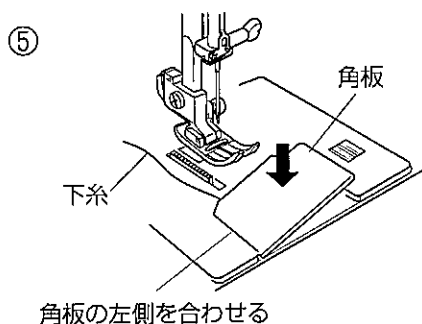
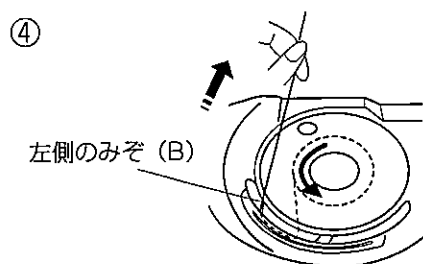
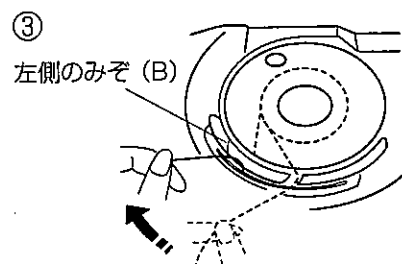
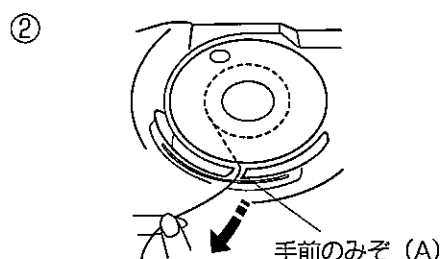
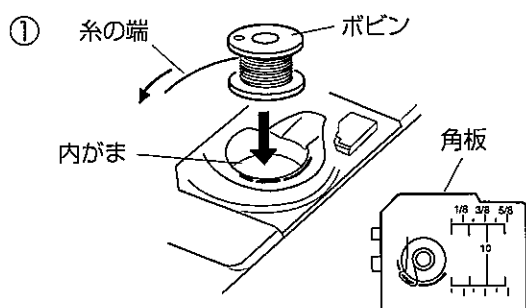


※ 付属の補助糸立て棒を利用すると、ミシンに付いている糸立て棒に糸こまをセットした状態のまま、別の糸こまで糸巻きができます。

補助糸立て棒を使うときは、図のように補助糸立て棒取り付け穴に差し込んでください。

糸こまは、糸の端が糸こまの手前から右に出るようにセットしてください。

★ボビンを内がまにセットします



⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因になります。

① 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るようにして、ボビンを内がまに入れます。

※ ボビンから引き出される糸の状態の図が角板に表示されています。

② 糸の端を引きながら、手前のみぞ (A) にかけます。

③ 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ (B) のところに出します。

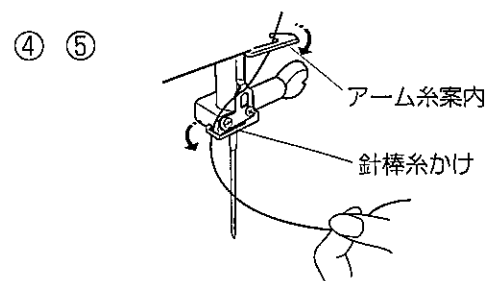
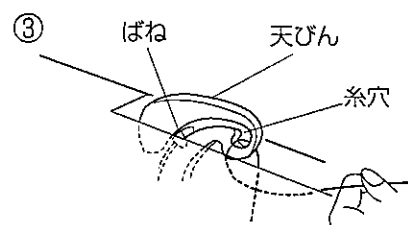
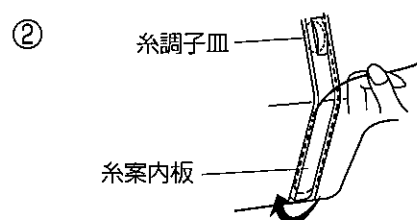
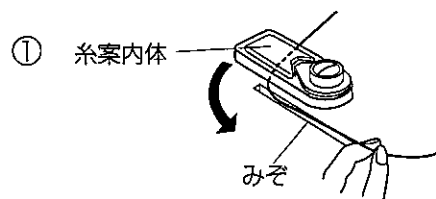
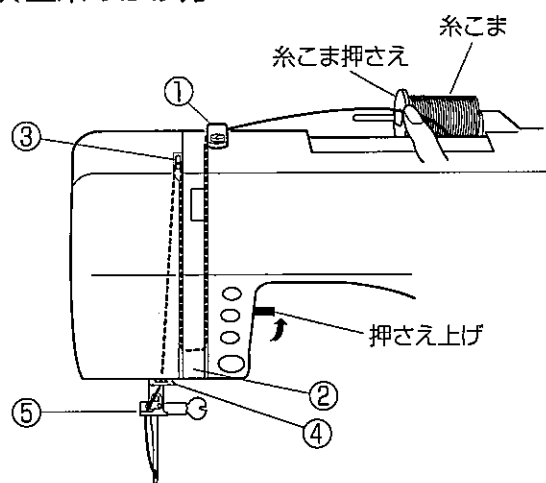
④ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。
時計方向に回転した場合は、ボビンの向きを上下逆に入れかえてください。

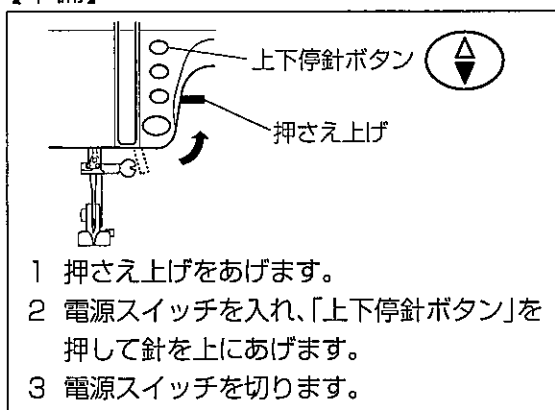
⑤ 下糸は 10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

●上糸の準備をしましょう

★上糸のかけ方



【準備】



- 1 押さえ上げをあげます。
- 2 電源スイッチを入れ、「上下停針ボタン」を押して針を上にあげます。
- 3 電源スイッチを切ります。

⚠ 注意

準備が終わったら、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

※ 糸こま外れ防止のため、必ず糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

※ 押さえ上げがあがっていないと、糸調子皿のあいだに上糸が入らず、ぬい不良になります。

③ 右手で糸こま側の糸を押さえながら、天びんに右からうしろをまわし、ばねを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。

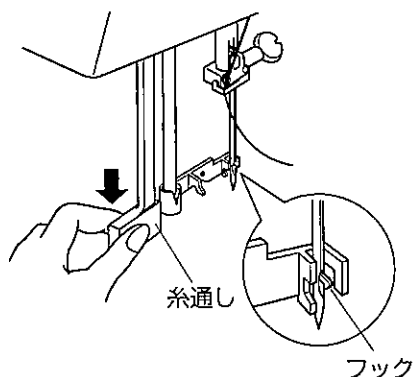
④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

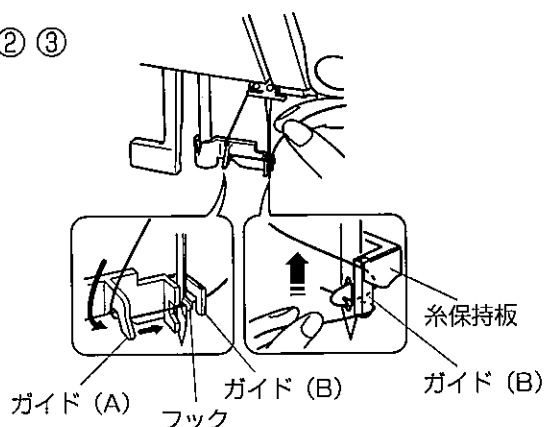
※ 針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、16ページをごらんください。

★糸通しの使い方

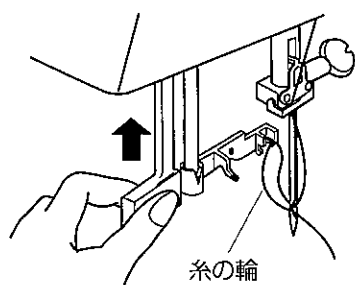
①



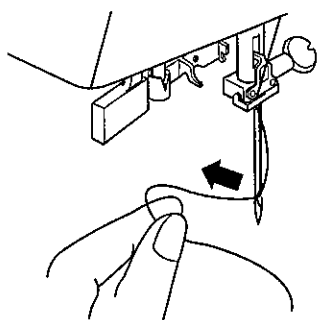
② ③



④



⑤



⚠ 注意

糸通しは、必ず電源スイッチを切ってから行なってください。
けがの原因になります。

※ この糸通しは、針 11 番～16 番およびストレッチ針、糸 50 番～90 番に使えます。

① 上糸かけのときに「上下停針ボタン」で針を上にあげた状態のまま、押さえ上げをさげます。糸通しを止まるまで引き上げます。

※ 糸通しが止まった位置で、針穴にフックが入っています。

② 糸を左側から下をまわしてガイド(A)とガイド(B)にかけます。

※ 糸がフックの下を通っていることを確認してください。

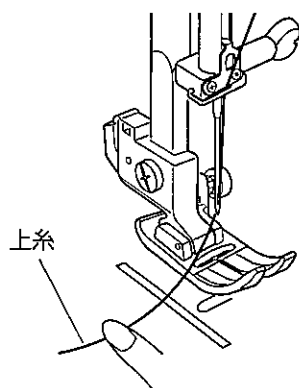
③ ガイド(B)の右から手前にまわし、そのままガイド(B)の側面にそって上に引きあげ、糸保持板に糸をはさみ込みます。

④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に引いて、針穴から糸の端を引き出します。

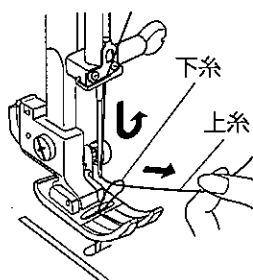
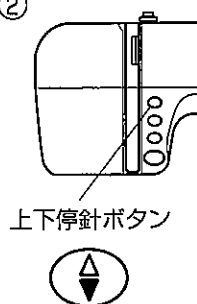
★下糸を引きあげます

①



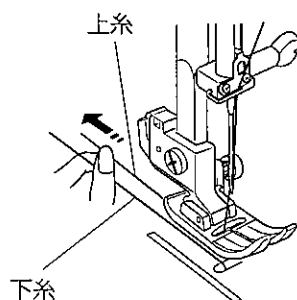
① 押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえておきます。

②



② 電源スイッチを入れ、「上下停針ボタン」を2回押して、針を再びあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③



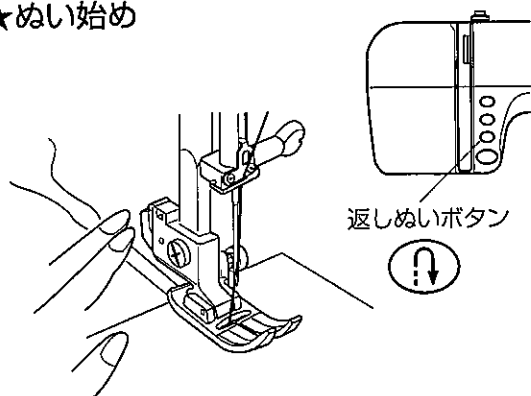
③ 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10cmほど引き出して、そろえておきます。

●直線ぬい

ミシンのセット



★ぬい始め

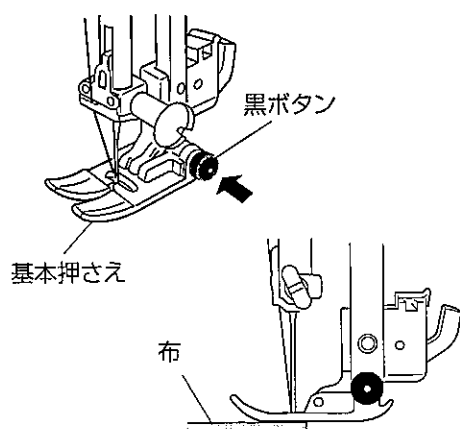


- ① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさします。

- ② 押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、「返しぬいボタン」を押します。

★厚手の布端のぬい始め



- ① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

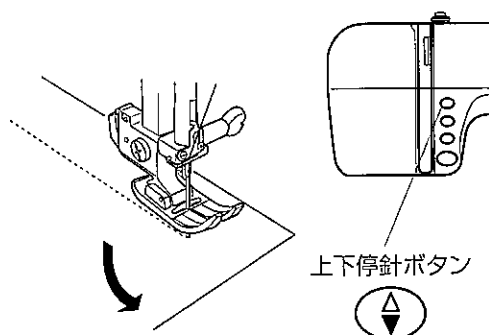
- ② 黒ボタンを押したまま押さえ上げをさげます。

- ③ 黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

※ 黒ボタンを押した状態で押さえ上げをさげると押さえが水平に固定され、段部をスムーズにぬい始めることができます。

ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえはもとの自由に動く状態になります。

★ぬい方向の変更



- ① 布の方向をかえる位置まできたらミシンを止めます。

- ② 「上下停針ボタン」を押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。

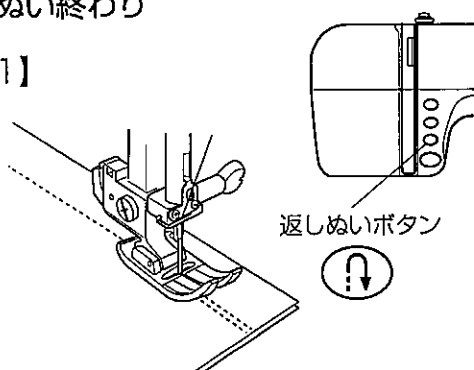
- ③ 針を布にさしたままぬい方向をかえます。

- ④ 押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

※ ぬい位置がずれなくて、きれいにぬうことができます。

★ぬい終わり

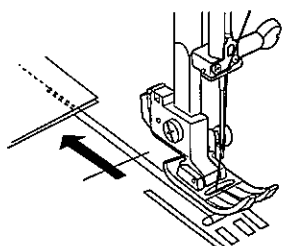
【1】



【1】 返しぬい

「返しぬいボタン」を押しながら数針返しぬいをします。

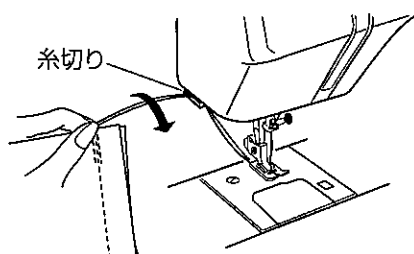
【2】



【2】 布の引き出し方

押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】

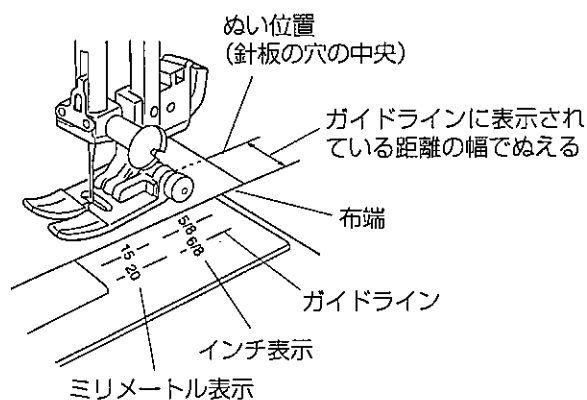


【3】 糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

※ ぬい始めとぬい終わりのほつれ止めを自動的に行う自動返しぬい模様⁰³と自動止めぬい模様⁰⁴があります。(21 ページをごらんください。)

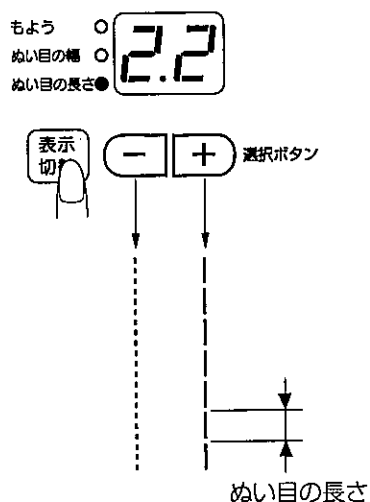
●針板ガイドラインの利用



布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。

※ ガイドラインの数字は、ぬい位置 (針板の穴の中央) からガイドラインまでの距離を「ミリメートル」または「インチ」で示しています。

●ぬい目の長さをかえるとき



「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の長さ」を選択します。

(自動セットの数値2.2が表示されます。)

「+ボタン」を押すと、ぬい目が長くなります。

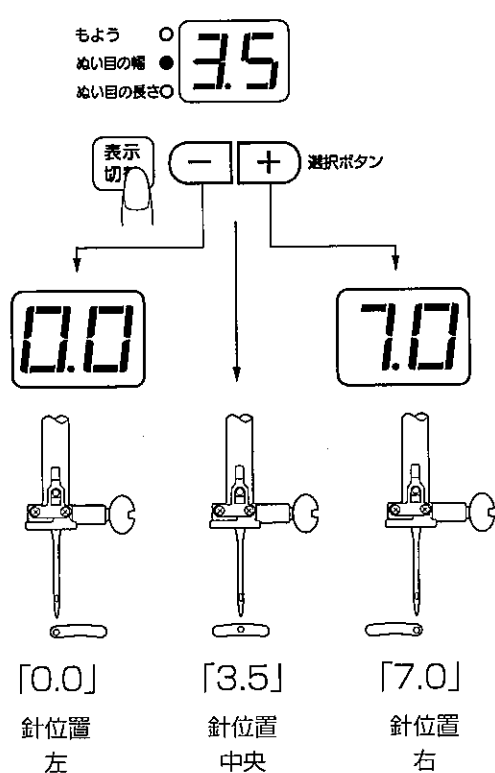
「-ボタン」を押すと、ぬい目が短くなります。

※ 0.0～5.0の範囲でかえることができます。

長さの単位は、mmです。

※ 返しぬいのぬい目の長さは、2.5mm以上にはなりません。

●針位置をかえるとき



※ 直線状の模様 01 02 03 04 05 07 は、針位置をかえることができます。

「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の幅」を選択します。

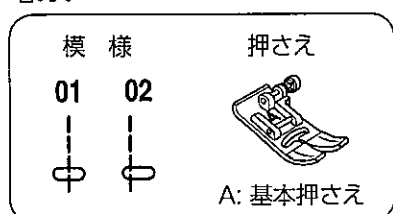
(自動セットの数値3.5が表示されます。)

「+ボタン」を押すと、針位置が右に移動します。

「-ボタン」を押すと、針位置が左に移動します。

●直線状のぬい目

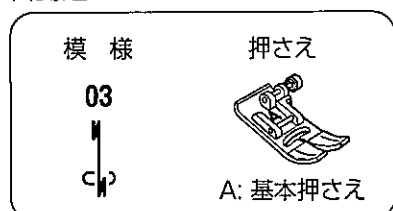
地ぬい



地ぬいや、ファスナー付けなどに使います。

※模様 ⁰² は、端ぬいに使用します。

自動返しぬい

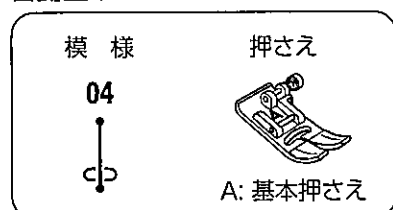


しっかりしたほつれ止め（返しぬい）を自動的に行うときに使います。

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいを行います。

ぬい終わりで「返しぬいボタン」を一度押すと、自動的に数針返しぬいを行ってからミシンは止まります。

自動止めぬい

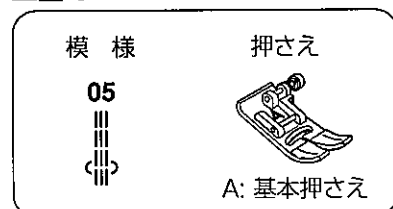


目立たないほつれ止め（止めぬい）を自動的に行うときに使います。

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいを行います。

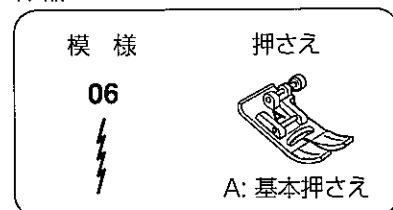
ぬい終わりで「返しぬいボタン」を一度押すと、自動的に数針止めぬいを行ってからミシンは止まります。

三重ぬい



伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。

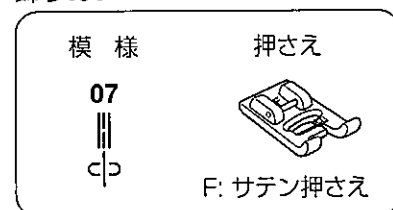
伸縮ぬい



布が伸びても糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。

また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

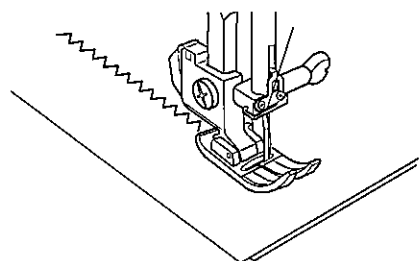
飾りぬい



飾りぬいや、キルティングなどに使用します。

●ジグザグぬい

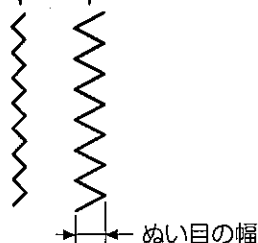
ミシンのセット



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）は接着芯を貼るとききれいにぬえます。

★ぬい目の幅・長さをかえるとき

【1】



【1】ぬい目の幅をかえるとき

「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の幅」を選択します。

（自動セットの数値 5.0 が表示されます。）

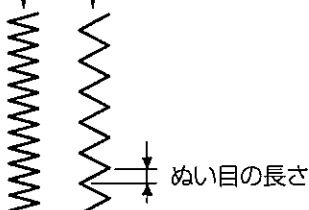
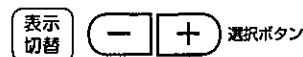
「+ボタン」を押すと、ぬい目の幅が広くなります。

「-ボタン」を押すと、ぬい目の幅がせまくなります。

※ 0.0 ～ 7.0 の範囲でかえることができます。

長さの単位は、mm です。

【2】



【2】ぬい目の長さをかえるとき

「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の長さ」を選択します。

（自動セットの数値 2.0 が表示されます。）

「+ボタン」を押すと、ぬい目が長くなります。

「-ボタン」を押すと、ぬい目が短くなります。

※ 0.2 ～ 4.5 の範囲でかえることができます。

長さの単位は、mm です。

●たち目かがり

ジグザグぬいたち目かがり

ミシンのセット

模様

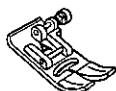
08



表示窓



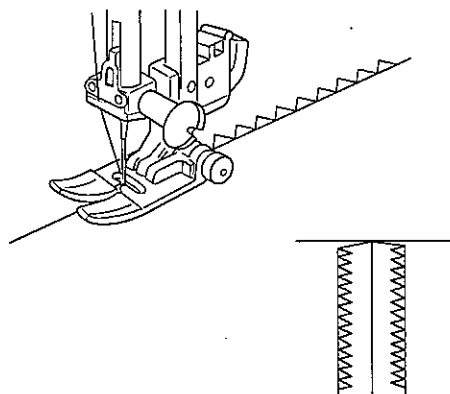
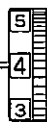
押さえ



A：基本押さえ

糸調子ダイヤル

3～6



布端のほつれ止めとして広く利用できます。

ジグザグの右側の針位置が布端より少し外側になるように布をガイドしてぬいます。

トリコットぬいたち目かがり

ミシンのセット

模様

09



表示窓



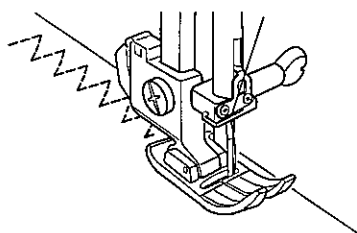
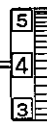
押さえ



A：基本押さえ

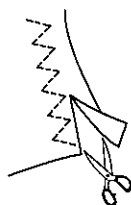
糸調子ダイヤル

3～6



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用できます。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



かがりぬい

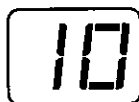
ミシンのセット

模様

10



表示窓



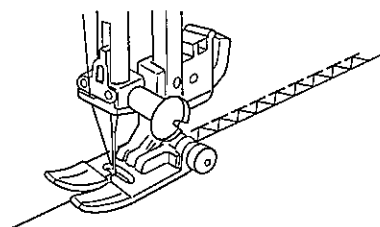
押さえ



A：基本押さえ

糸調子ダイヤル

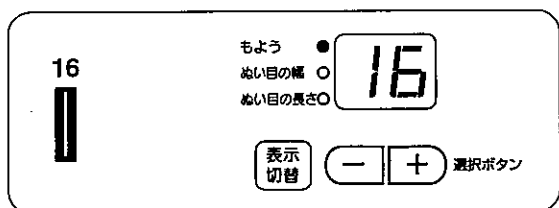
3～7



地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに利用できます。

右側の針位置が布端より少し外側になるように布をガイドしてぬいます。

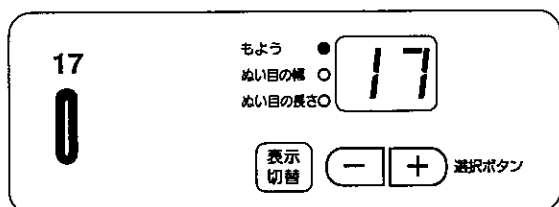
●ボタンホール



★ボタンホールの種類

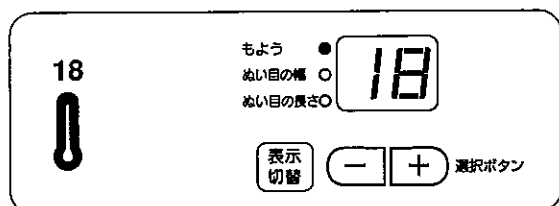
◎スクエア（両止め）

中厚物から厚物まで一般的な使用目的のボタンホールです。



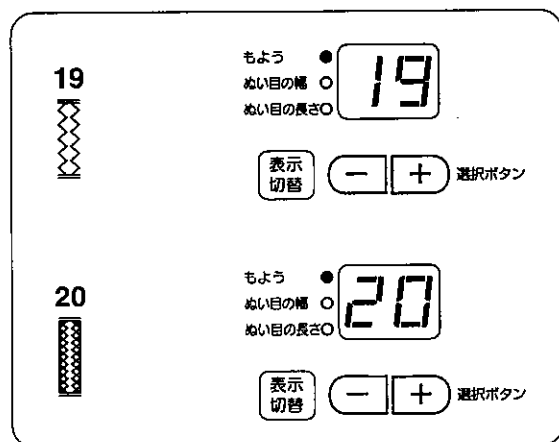
◎ラウンド

中厚物から薄物の素材に使います。
(ブラウス、子供服などでよく使われます。)



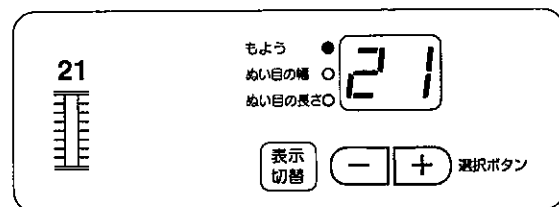
◎キーホール（はとめ穴）

中厚物から厚物の素材に使います。
(ジャケットなどで使われます。)



◎ニット用

ニットなど伸縮性のある布に適したボタンホールです。
また、飾りぬいボタンホールとしても使います。

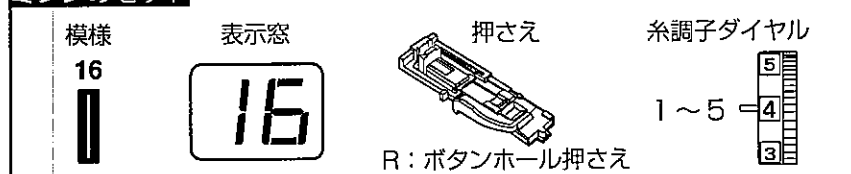


◎薄地用

手ぬい風のボタンホールで、飾りぬいボタンホールとして使います。

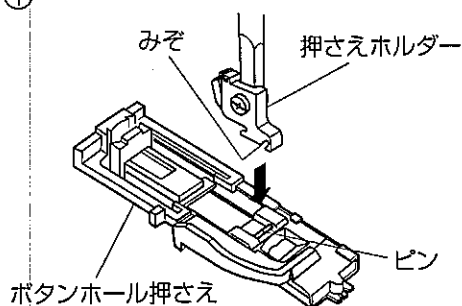
★ボタンホール#16 (スクエア) のぬい

ミシンのセット



- ※ 使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にセットするだけで、最適な大きさのボタンホールを自動的にぬうことができます。
- ※ ボタンの直径が 1.0 ～ 2.5cm の範囲のボタンホールをぬうことができます。
- ※ 伸縮性のある布は、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。
- ※ ぬうものと同じ布で試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。

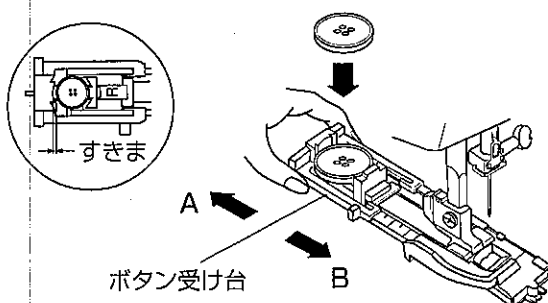
①



① 針と押さえ上げをあげます。

押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

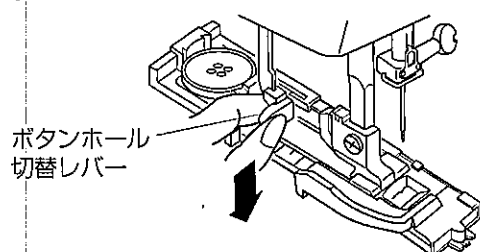
②



② ボタン受け台を一度Aの方向に引き、ボタンをのせてからBの方向にもどしてボタンをはさみ込みます。

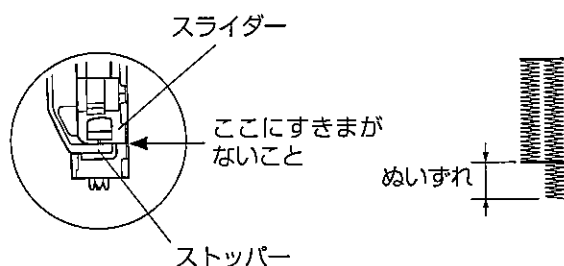
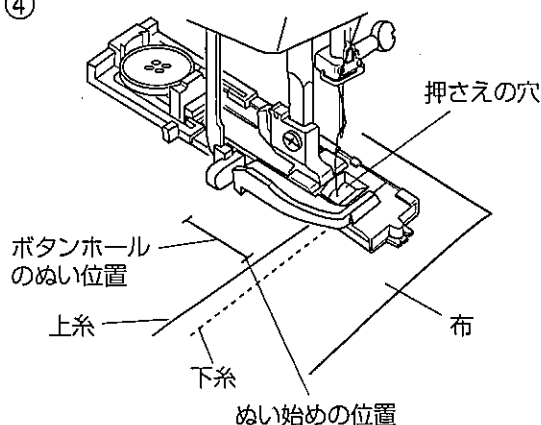
※ ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

③



③ ボタンホール切替レバーを止まるまでいっぱい引きさげます。

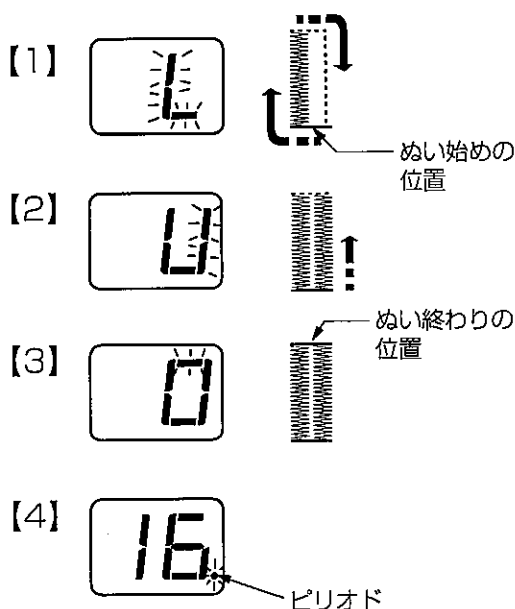
④



④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、はずみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。

※ ぬい始める前に、押さえのスライダーとストッパーのあいだにすきまがないことを確認してください。
すきまがあると、ぬい終わったときにぬいずれがおこることがあります。

⑤



⑤ ミシンをスタートし、自動的に止まるまでぬいます。

[ぬっていく順序]

※ 表示窓に、各ステップごとにボタンホールのぬっている場所が点滅表示されます。

【1】 第1、2ステップ かんぬきと左側のボタンホールをぬいます。

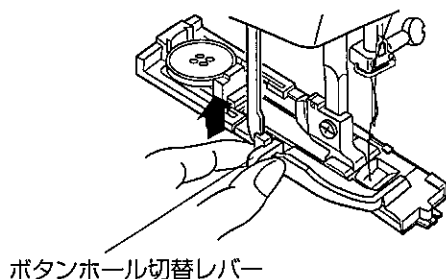
【2】 第3ステップ 右側のボタンホールをぬいます。

【3】 第4ステップ かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

【4】 ぬい終了 模様番号の表示にもどり、ピリオドが点滅します。

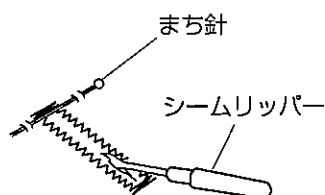
※ 押さえ上げをさげたままもう一度ミシンをスタートさせると、くり返し同じ長さのボタンホールを重ねてぬう「重ねぬい」ができます。重ねぬいは29ページをごらんください。

⑥



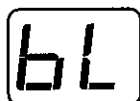
⑥ ぬい終わったらボタンホール切替レバーを止まるまでいっぱい押しあげて戻します。

⑦



⑦ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切り開きます。

【1】



【1】 ぬい始めてしばらくして、表示窓に左図に示す表示が出た場合

ボタンホール切替レバーをさげないで、ボタンホールを約0.5cmぬったときに表示されます。ボタンホール切替レバーをさげて、再スタートしてください。

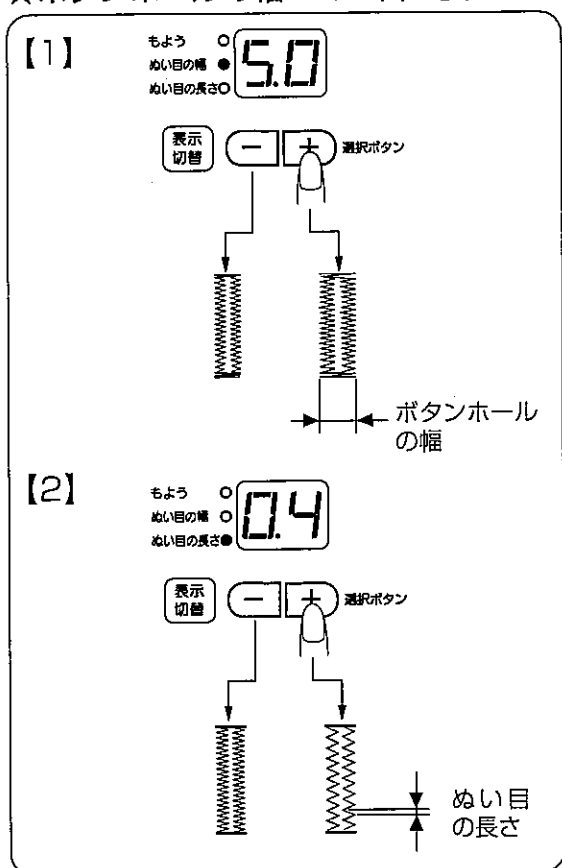
【2】



【2】 ぬい終わったあと模様を選んだときに、表示窓に左図に示す表示が出た場合

ボタンホールをぬい終わったあと、押さえ上げおよびボタンホール切替レバーをさげたまま他の模様を選んだときに一度表示されます。押さえ上げまたはボタンホール切替レバーのどちらかがあがっていれば表示されません。ぬい終わったあとは、押さえ上げおよびボタンホール切替レバーをあげてから他の模様を選んでください。

★ボタンホールの幅・ぬい目の長さをかえるとき



【1】 ボタンホールの幅をかえるとき

「表示切替ボタン」で「ぬい目の幅」を選択します。
 (自動セットの数値5.0が表示されます。)
 「+ボタン」を押すと、ボタンホールの幅が広くなります。
 「-ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がせまくなります。

※ 2.5～7.0の範囲でかえることができます。

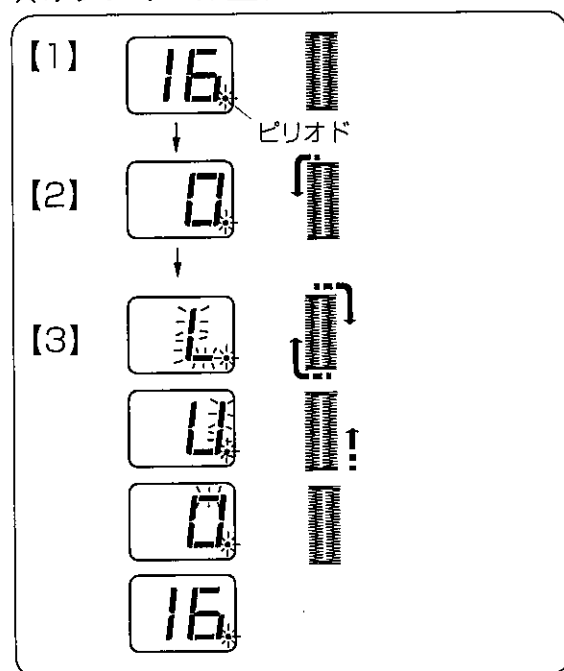
【2】 ぬい目の長さをかえるとき

「表示切替ボタン」で「ぬい目の長さ」を選択します。
 (自動セットの数値0.4が表示されます。)
 「+ボタン」を押すと、ぬい目が長くなります。
 「-ボタン」を押すと、ぬい目が短くなります。

※ 0.2～0.8の範囲でかえることができます。

※ 「ぬい目の幅」または「ぬい目の長さ」を表示したままぬいと、ぬい中もその表示の状態が続き、ぬいが終了すると **16** 表示になります。

★ボタンホール重ねぬい



ボリューム感のあるボタンホールができます。

[ぬっていく順序]

【1】 一度目のボタンホールをぬい終わった状態です。
 押さえ上げをさげた状態のままミシンを再スタートしてください。

※ ピリオドの点滅は、重ねぬいできる状態を示します。

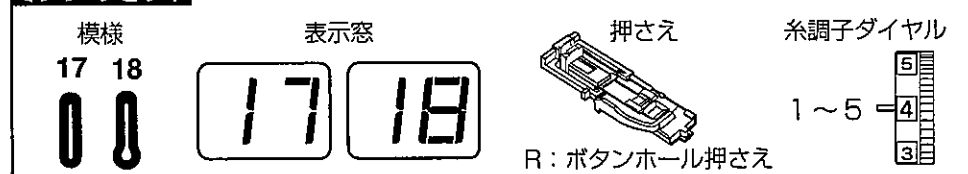
【2】 ぬい始めの位置まで下ぬいをします。

【3】 一度目のボタンホールと同様、第1～第4ステップをぬって、ミシンは止まります。
 (27 ページをごらんください。)

※ ボタンホールの重ねぬいをする場合には、1回目のぬいを確実に終了させたあと再スタートしてください。

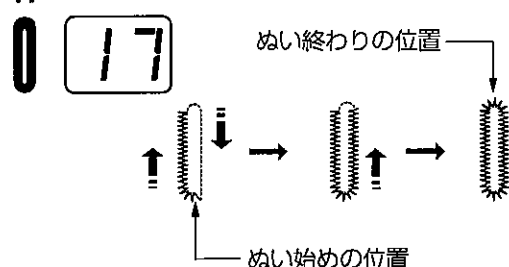
★ボタンホール# 17 (ラウンド)・# 18 (キーホール) のぬい

ミシンのセット



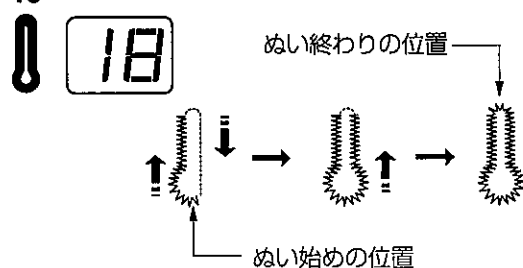
[ぬっていく順序]

17

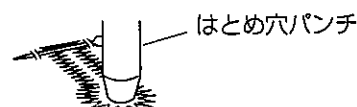


ぬい方およびぬっていく順序はボタンホール # 16 (スクエア) と同じです。
26 ~ 28 ページをごらんください。

18



※ # 18 (キーホール) の場合は、はとめ穴パンチ (市販品) で穴をあけてから、かんぬきの内側をシームリッパーで切り開いてください。

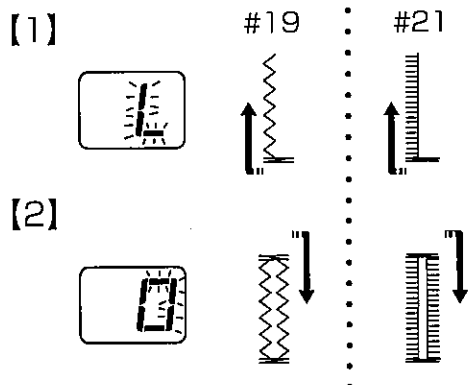
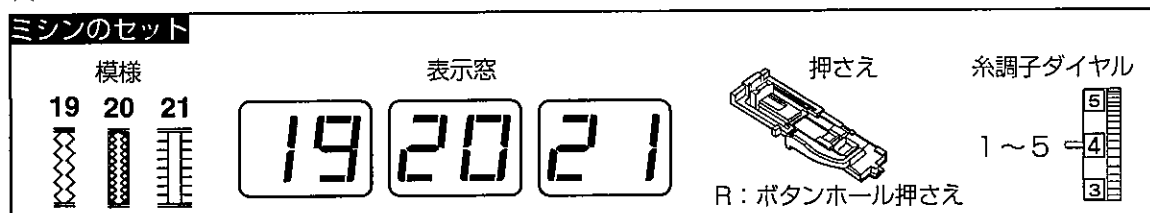


※ ボタンホールの幅やぬい目の長さをかえる場合は 29 ページをごらんください。

17 (ラウンド) の場合、ボタンホールの幅は 2.5 ~ 5.5、ぬい目の長さは 0.2 ~ 0.8 の範囲でかえることができます。

18 (キーホール) の場合、ボタンホールの幅は 5.0 ~ 7.0、ぬい目の長さは 0.2 ~ 0.8 の範囲でかえることができます。

★ボタンホール#19（ニット）・#20（ニット）・#21（薄地用）のぬい

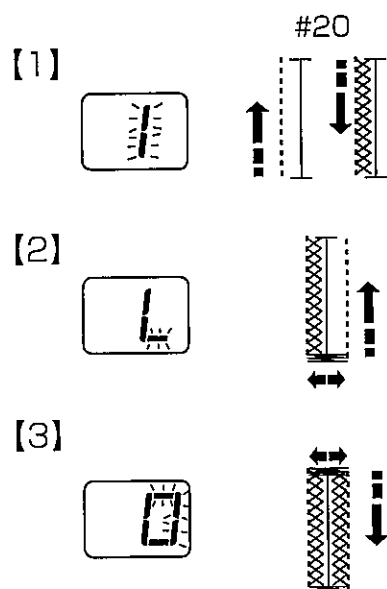


ぬい方はボタンホール#16（スクエア）と同じです。26～28ページをごらんください。

【#19、#21のぬっていく順序】

- 【1】 第1ステップ かんぬきと左側のボタンホールをぬいます。
- 【2】 第2ステップ かんぬきと右側のボタンホールをぬい、止めぬいをして自動的に止まります。

※ ボタンホール#19、#21の左右のぬい目の長さがそろわない場合は、42ページをごらんください。



【#20のぬっていく順序】

- 【1】 第1ステップ 左側のボタンホールをぬいます。
- 【2】 第2ステップ かんぬきをぬいます。
- 【3】 第3ステップ かんぬきと右側のボタンホールをぬい、止めぬいをして自動的に止まります。

※ ボタンホールの幅やぬい目の長さをかえる場合は29ページをごらんください。

#19（ニット）の場合、ボタンホールの幅は2.5～7.0、ぬい目の長さは0.5～1.0の範囲でかえることができます。

#20（ニット）の場合、ボタンホールの幅は2.5～7.0、ぬい目の長さは0.7～1.2の範囲でかえることができます。

#21（薄地用）の場合、ボタンホールの幅は2.5～7.0、ぬい目の長さは1.0～2.5の範囲でかえることができます。

●芯入りボタンホール

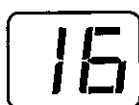
ミシンのセット

模様

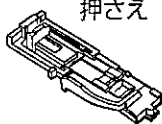
16



表示窓



押さえ



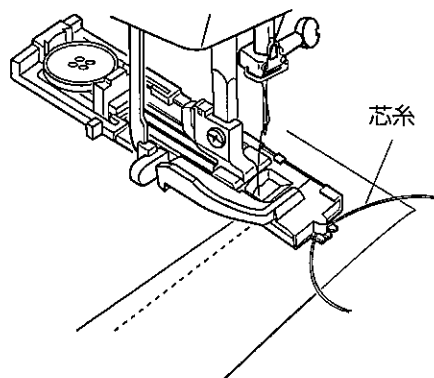
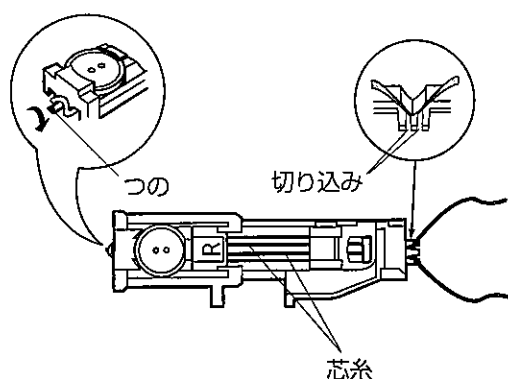
R: ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル

1 ~ 5



① ②

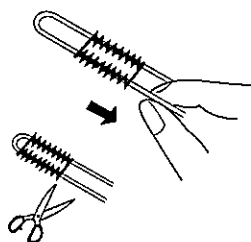


① 芯糸の輪をボタンホール押さえのうしろ側にあるつのにつけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の2カ所の切り込みにそれぞれはさみます。

② ボタンホール（スクエア）の手順と同じようにぬいます。
(26 ~ 28 ページをごらんください。)

※ ボタンホールの幅は芯糸に合わせてかえてください。

③

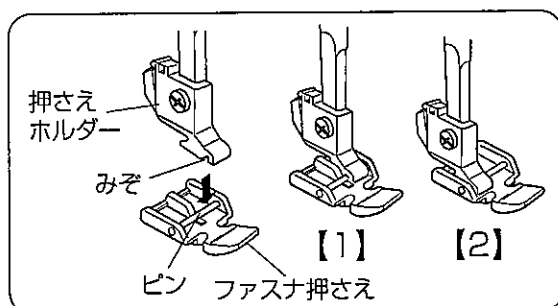
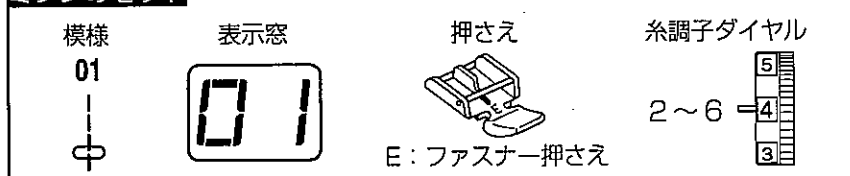


③ ぬい終わったあと左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な糸を切ります。

※ ボタンホールの穴のあけ方は、28 ページをごらんください。

●ファスナー付け

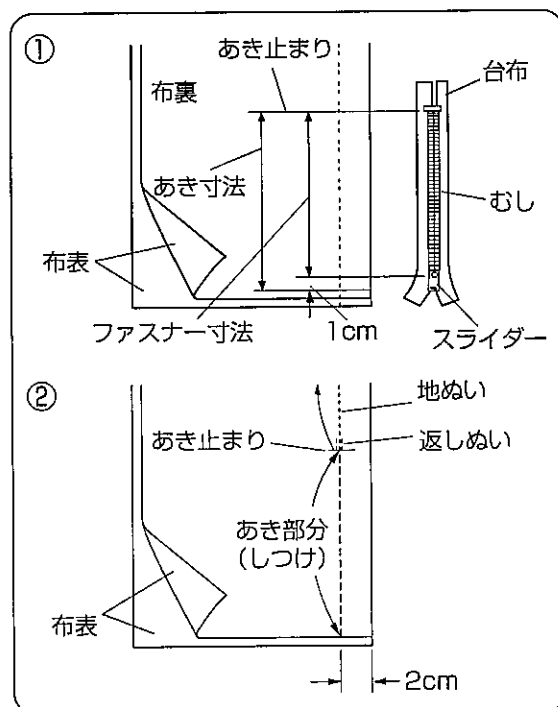
ミシンのセット



【ファスナー押さえの付け方】

ファスナーのむしの左側をぬうときは、押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットします。
むしの右側をぬうときは、押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。

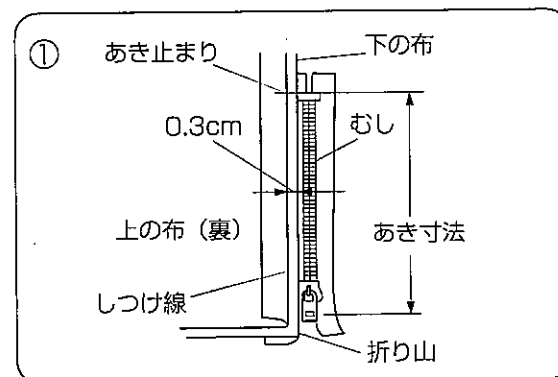
- 【1】 むしの左側をぬうとき
【2】 むしの右側をぬうとき



【準備】(例：左脇あきのぬい方)

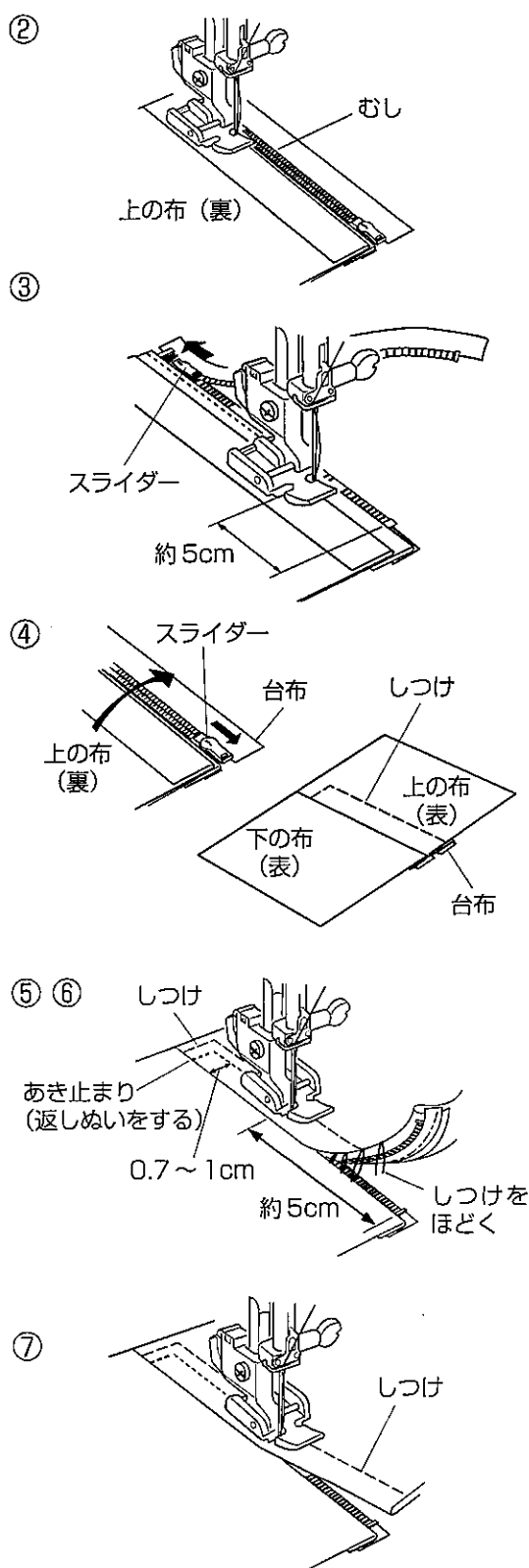
- ① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。
- ② A: 基本押さえを使用して、地ぬいとしつけをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分は、ぬい目の長さを「5.0」でぬい(しつけ)ます。

※ しつけは、ほどこきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを適正な位置にもどしてください。



【ぬい】

- ① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



② ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットし、むしのきわを押さえの端 (右側段部) にあて、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③ ファスナーの端から約 5cm 手前でミシンを止め、はずみ車をまわして針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

④ ファスナーをとじ、スライダーを上にあたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは、A：基本押さえを使用します。
ほどこしやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを適正な位置にもどしてください。

⑤ ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。
上の布のあき止まりを 0.7 ~ 1cm 返しぬいしてから、むしのきわを押さえの端 (左側段部) にあて、あき止まりからファスナーの右側をぬいます。

⑥ ファスナーの上側を約 5cm 残したところでミシンを止め、はずみ車をまわして針を布にさし、押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどこします。

⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどこします。

●ボタン付け

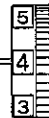
ミシンのセット

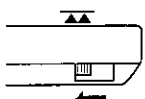
模様
08


表示窓


押さえ

F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル
3 ~ 7


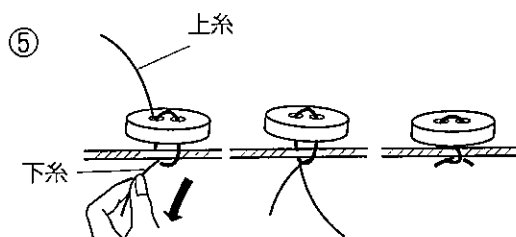
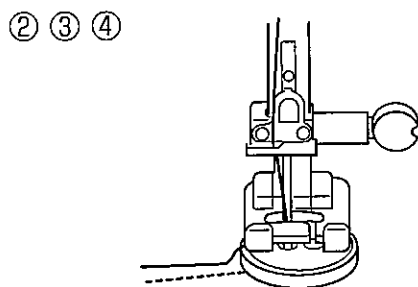
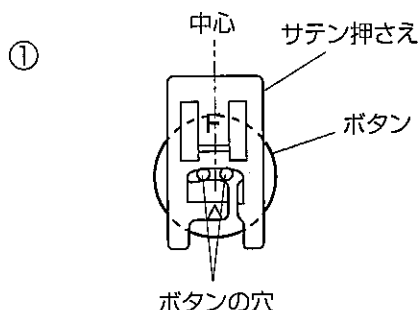
ドロップつまみ


【準備】

- (1) ドロップつまみで送り歯をさげます。
- (2) スピードコントロールつまみを「ゆっくり」にセットします。
- (3) ボタンの左右の穴の間かくをはかり、間かくと同じ値にぬい目の幅を設定します。

※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるために、下記【ぬい】の手順①からの操作を行うときは、必ず模様# 8 を選んだ直後から行ってください。

模様# 8 を一度でもぬったあとに行うと、ぬい始めに止めぬいが入りません。



【ぬい】

① ボタンの左右の穴が真横になるように押さえの中心にボタンを置き、押さえ上げをさげます。

② 手で、はずみ車を手前にまわして左側のボタンの穴を数針ぬい、針が右側に振られて右側の穴を一度ぬうまで続け、針がボタンにあたらず、ボタンの左右の穴に確実にささることを確認します。

※ 模様のぬい始めは止めぬいが入っているので、最初は左側のぬいが数針続き、そのあと左右に針が振られます。

③ 10 針くらいぬったらミシンを止めます。

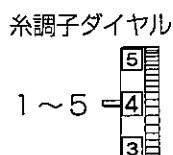
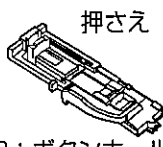
④ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 20cm くらい残して切ります。

⑤ ぬい始めの上糸と下糸は止めぬいが入っているので、ボタンのきわではさみで切ります。ぬい終わりの上糸と下糸は、下糸を引いて上糸を布の裏側に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。

※ ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認してください。

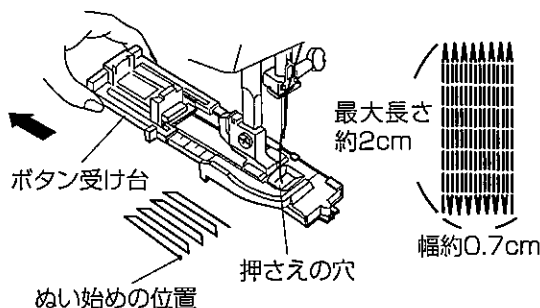
●ダーニング (つくろいぬい)

ミシンのセット

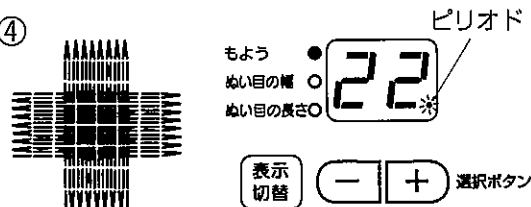


R: ボタンホール押さえ

① ② ③



④



① ボタン受け台を一杯に引き出します。

② 上糸を押さえるの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

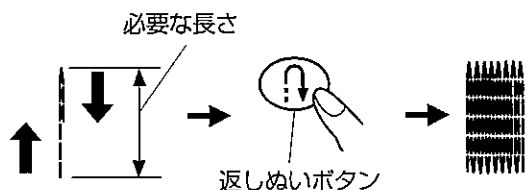
③ ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげ、自動的に止まるまでぬいます。
自動的に止まるまでぬうと、最大長さ約2cm、幅約0.7cmのダーニングがぬえます。
2cmより短い長さでぬう場合は、下記をください。

④ 布の向きをかえてぬいます。

※ ぬい終わるとピリオドが点滅し、長さが記憶されていることを示しています。ピリオドが点滅しているあいだは、くり返し同じ長さのダーニングをぬうことができます。

ダーニングの長さをかえたいときは、「+ボタン」または「-ボタン」を一度押して、ピリオドを消してください。

【2cmより短い長さでぬう場合】

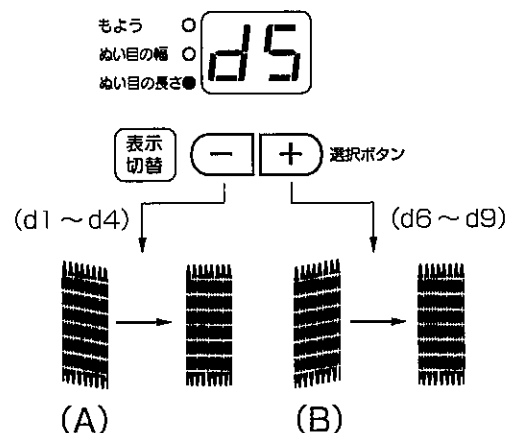


【2cmより短い長さでぬう場合】

最初に必要な長さまでぬい、「返しぬいボタン」を押します。

押されたところから折り返しますので、自動的に止まるまでぬいます。

【ダーニングの形の整え方】



【ダーニングの形の整え方】

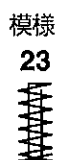
ダーニングのぬい始め（左側）とぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、「表示切替ボタン」でぬい目の長さを選び、「+ボタン」または「-ボタン」で調節します。

(A) 右側が低いとき d1 ~ d4で左右の高さをそろえます。

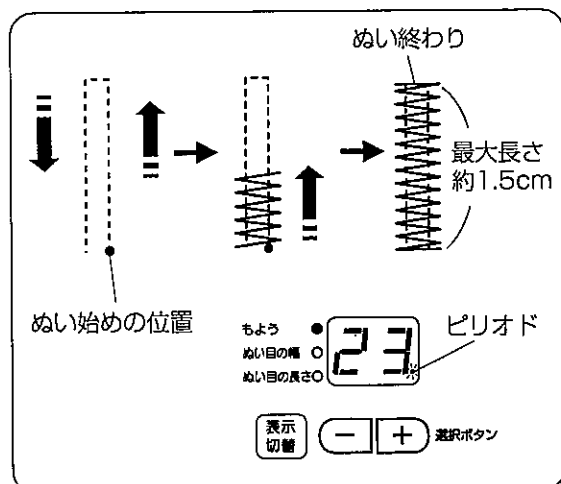
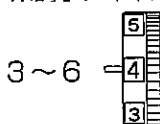
(B) 左側が低いとき d6 ~ d9で左右の高さをそろえます。

●かんぬき止めぬい

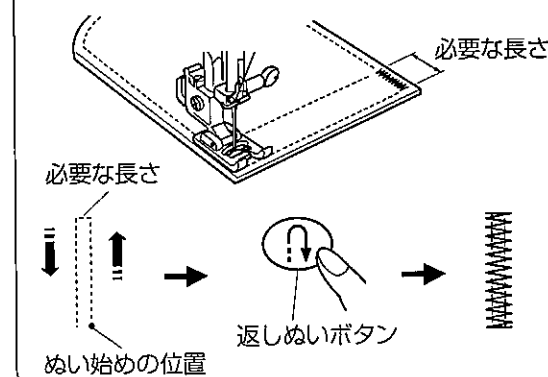
ミシンのセット



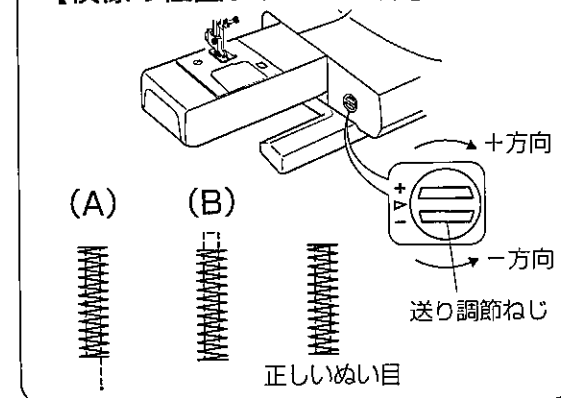
糸調子ダイヤル



【1.5cm より短い長さでぬう場合】



【模様の位置ずれの整え方】



ポケット口など、ぬい目に力がかかってほつれやすい部分などを補強します。

ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげ、自動的に止まるまでぬいます。

自動的に止まるまでぬうと、最大長さ約1.5cmのかんぬき止めがぬえます。1.5cmより短い長さでぬう場合は、下記をごらんください。

※ ぬい終わるとピリオドが点滅し、長さが記憶されていることを示しています。ピリオドが点滅しているあいだは、くり返し同じ長さのかんぬき止めをぬうことができます。長さをかえたいときは、「+ボタン」または「-ボタン」を一度押して、ピリオドを消してください。

※ ぬい目の幅は1.0~5.0、ぬい目の長さは1.0~2.5のあいだでかえることができます。(ぬい目の長さをかえると、自動でぬえる最大長さもかわります。)

【1.5cm より短い長さでぬう場合】

必要な長さまでぬい、「返しぬいボタン」を押します。

押されたところから折り返しますので、自動的に止まるまでぬいます。

【模様の位置ずれの整え方】

模様の位置がずれる場合は、送り調節ねじで調節します。(実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをして調節してください。)

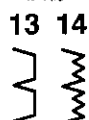
(A) ぬい始めの位置が残ってしまうときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

(B) 折り返し位置が残ってしまうときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。

●まつりぬい

ミシンのセット

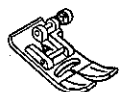
模様



表示窓

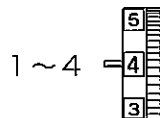


押さえ



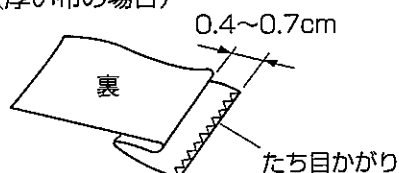
A：基本押さえ

糸調子ダイヤル

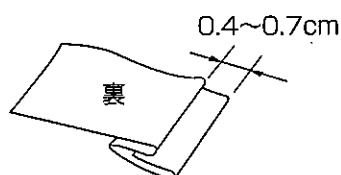


【布の折り方】

(厚い布の場合)

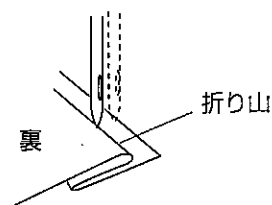


(うすい布、普通の布の場合)

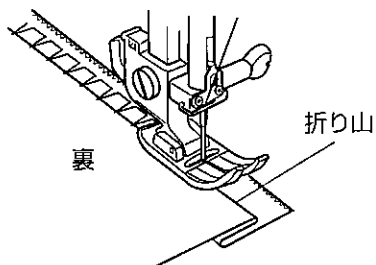


【ぬい方】

①



②



③



※ 模様 ¹⁴ は、伸縮性のある布に使用します。

① 針がいちばん左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置き、押さえ上げをさげます。

※ スピードコントロールつまみは「ゆっくり」にセットしてください。

② 折り山のぬい位置がずれないように布をガイドしながらぬいます。

※ 左側におりる針が必要以上に折り山にかかりすぎると布の表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんので注意してください。

③ ぬい終わったら布をひろげます。

●シェルタック

ミシンのセット

模様

15



表示窓



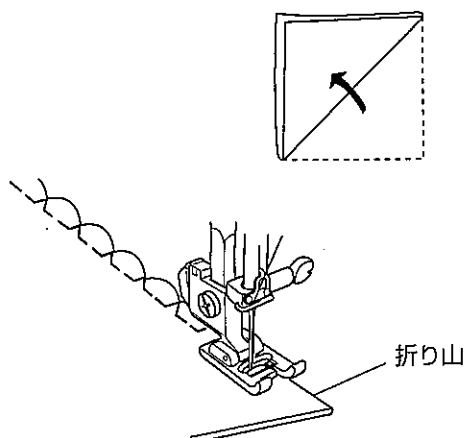
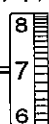
押さえ



F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル

6 ~ 8



布をバイヤスに、2つに折ります。

針が右にきたとき、布の折り山から少し外側をさすようにしてぬいます。

布を開き、アイロンで山を片側にたおします。

※ 試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように糸調子を調節してください。

●密着模様ぬい

ミシンのセット

模様

24 25 26 27



表示窓



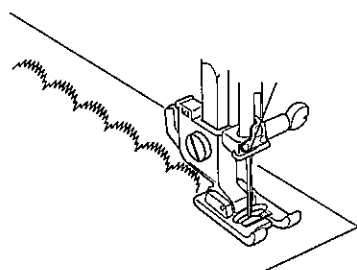
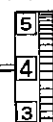
押さえ



F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル

1 ~ 4



布が縮むときは、下に紙を敷くかまたは芯地を貼るときれいに仕上がります。

※ 必要な模様数の最後の模様のぬい途中で「止めぬいボタン」を押すと、その模様を最後までぬって自動的に止めることができます。

●アップリケ

ミシンのセット

模様
28



表示窓

28

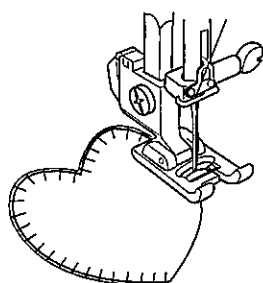
押さえ



F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル

1 ~ 4



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。

針が右にきたとき、アップリケ布の少し外側をさすようにしてぬいます。

※ 急なカーブや方向転換する場所は、布の外側をぬうところでミシンを止め、「上下停針ボタン」を押して針を下位置にし、押さえ上げをあげて方向をかえながらぬうときれいにぬえます。

●パッチワーク

ミシンのセット

模様
29



表示窓

29

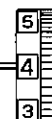
押さえ



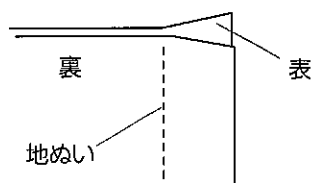
F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル

1 ~ 4

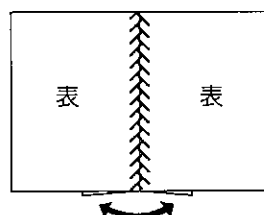


①



① 布を中表に合わせて地ぬいをします。

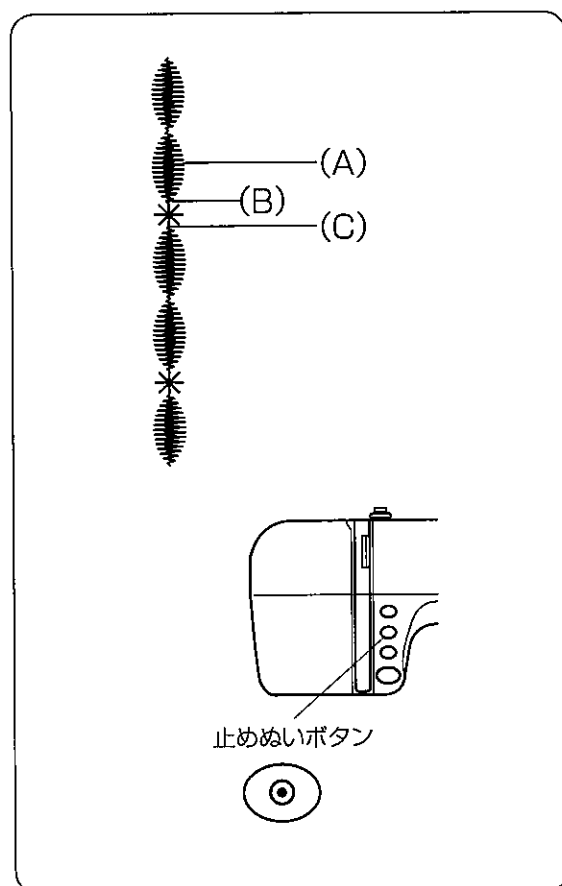
②



② ぬい代を割って、布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●止めぬいボタンを使った飾りぬい

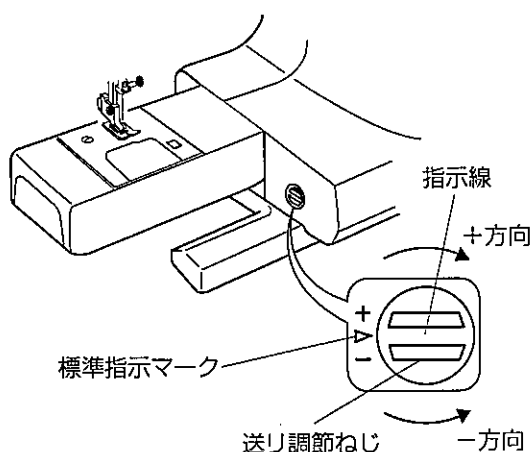
ミシンのセット



例：模様#25（2個）と 模様#30（1個）の組み合わせ

- ① 模様#25を選んでぬい始め、2個目をぬっている途中の(A)の位置で「止めぬいボタン」を押します。
2個目の模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。…(B)の位置
- ② 模様#30を選びます。
- ③ ぬう前に、(B)の位置で「止めぬいボタン」を押します。
(模様をぬい始めてから押しても同じ結果になります。)
- ④ ぬい始めると、模様#30を1つぬって自動的に止まります。…(C)の位置
- ⑤ 模様#25を選び、手順①からの操作をくり返します。

●模様の形の整え方



布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては模様の形がくずれる場合があります。

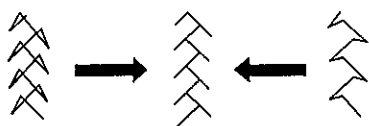
実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形がくずれている場合は、送り調節ねじで調節してください。

※ 標準指示マークと指示線の一致する位置が、標準的な条件での模様を正しくぬえる目安の位置です。

【スーパー模様の形の整え方】

※ スーパー模様とは、前進ぬいと後進ぬいが組み合わされている模様です。

【A】 【正しい形】 【B】



例：模様 ²⁹ の場合

【A】 模様がつまっているとき

…送り調節ねじを「+」の方向にまわす。

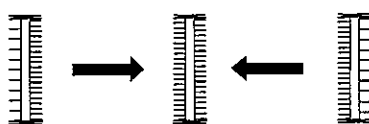
【B】 模様が伸びているとき

…送り調節ねじを「-」の方向にまわす。

【ボタンホールの 左右のぬい目の長さの整え方】

※ ボタンホール #19、#21 が調節できます。

【A】 【正しい形】 【B】



例：ボタンホール ²¹ の場合

【A】 ボタンホールの左側があらいつき

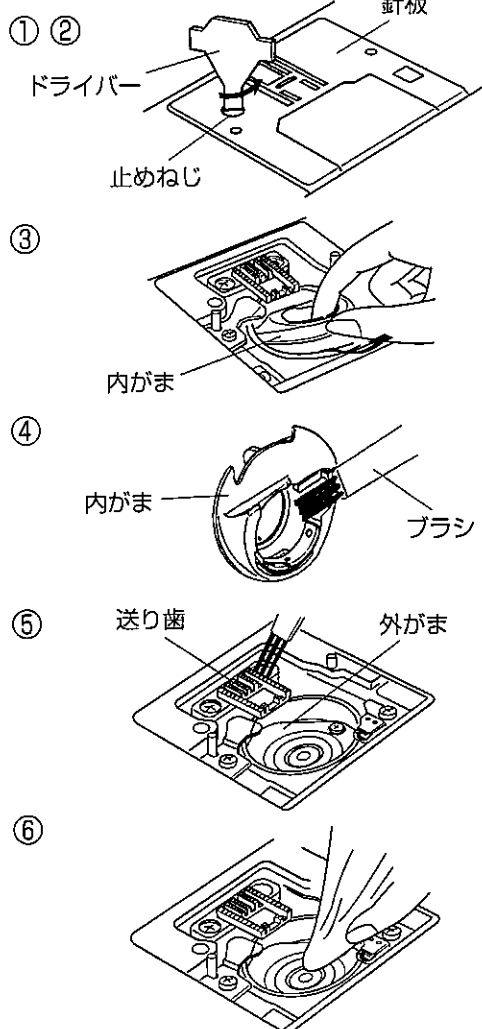
…送り調節ねじを「+」の方向にまわす。

【B】 ボタンホールの右側があらいつき

…送り調節ねじを「-」の方向にまわす。

●ミシンのお手入れ

★かまと送り歯の掃除



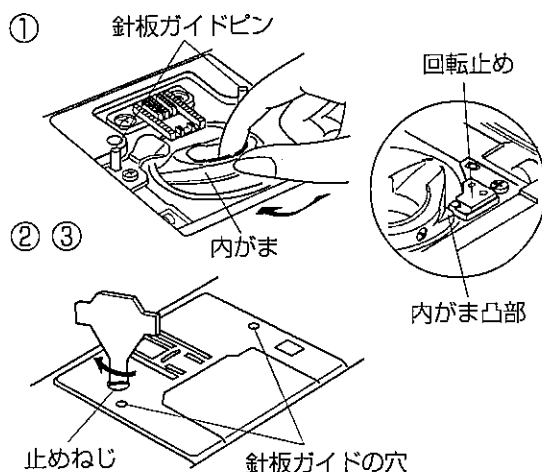
⚠ 注意
• お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 • お手入れのときは、説明されている場所以外は分解しないでください。
感電、けがの原因になります。

- ① 針と押さえホルダーを外します。
- ② 止めねじを外し、針板を外します。
- ③ ボビンを取り出し、内がまの手前を上引きながら外します。
- ④ 内がまをブラシなどで掃除し、布切れで軽くふきます。
- ⑤ 送り歯のごみを、ブラシなどで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

- ⑥ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ 掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

★内がまと針板の組み付け



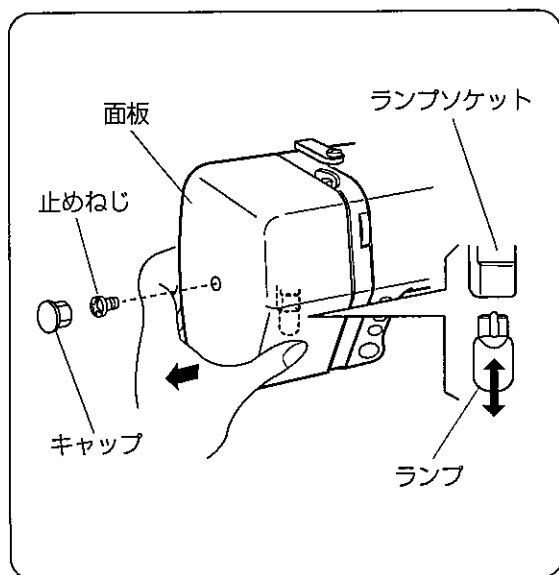
- ① 内がまを、凸部を回転止めの左側に合わせてセットします。

- ② ボビンを入れ、2カ所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて針板を取り付けます。

- ③ 止めねじをしめます。

※ お手入れが終わったら、針と押さえホルダーを取り付けてください。

●ランプの取りかえ方



⚠ 注意

- ランプを取りかえるときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因になります。
- ランプは冷えてから外してください。やけどの原因になります。

《外し方》

- ① キャップを外し、止めねじを外して面板を取り外します。
- ② ランプをそっと引き抜きます。

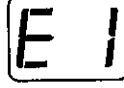
《付け方》

- ① ランプをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
- ② 止めねじで面板を取り付け、キャップを付けておきます。

※ ランプの購入は、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
ランプの定格は 12V / 5W です。
定格の異なるランプは、取り付けないでください。

●こんな表示が出た場合

ブザー音（禁止音、警告音）とともに、表示窓に下記に示す表示が出た場合は対処方法にしたがってください。（約1.5秒間表示が出ます。）

表 示	対 処 方 法
	1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップボタンを押したときに表示されます。 スタート/ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーを接続しないでください。 2. めい中にフットコントローラーのプラグが外れたときに表示されます。 電源を切ってからフットコントローラーのプラグを差し込んでください。
	安全装置が働いてミシンモータが緊急停止（約15秒間）しているときに、操作ボタンを押したり、ミシンをスタートさせようとする则表示されます。15秒間経過後に操作可能になります。 糸がらみ等でミシンが停止した場合は電源スイッチを切り、不要な糸を取り除いてください。
	ボタンホール切替レバーをさげないでボタンホールを約0.5cm めうと表示されます。 ボタンホール切替レバーをさげて、再スタートしてください。
	ボタンホールをめい終わったあと、押さえ上げおよびボタンホール切替レバーをさげたまま他の模様を選んだときに一度表示されます。 押さえ上げおよびボタンホール切替レバーをあげ、ボタンホール押さえを外してから他の模様を選んでください。
 等	電源スイッチを入れたときに表示された場合、ミシンが故障しています。 お買い上げの販売店にご連絡ください。
	糸巻き軸がボビン押さえの方に押しつけられた状態（下糸巻き状態）のときに表示されます。 ※ 禁止および警告表示ではありませんので、下糸巻き状態のあいだ表示されています。

★ブザー音の種類

ブザー音	内 容
ピッ	正しい操作をしたときの受け付け音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピビー	ボタンホールめい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついているか、または糸調子皿から上糸が外れている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. めい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. めい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	15 ページ参照 11 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 18 ページ参照 19 ページ参照 10 ページ参照
下糸が切れる	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸がゆるく巻かれている。	14 ページ参照 43 ページ参照 ボビンを交換する 巻く速度を速くする
針が折れる	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. めい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様にあった押さえを使用していない。	10 ページ参照 10 ページ参照 19 ページ参照 10 ページ参照 押さえを交換する
めい目かとぶ	1. 針の付けかたがまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ストレッチ針（市販SP針）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 15 ページ参照 針を交換する
めい目がしわになる	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. 布に対してめい目が長すぎる。	11 ページ参照 14・15 ページ参照 10 ページ参照 めい目を短くする
布送りがうまくいかない	1. 送り歯に糸くすがたまっている。 2. めい目が短すぎる。 3. 送り歯があがっていない。	43 ページ参照 めい目を長くする 8 ページ参照
めい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	11 ページ参照 10 ページ参照
ボタンホールがうまくぬえない	1. ボタンホール切替レバーをさげていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	26 ページ参照 26 ページ参照
ミシンがまわらない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに糸やごみがたまっている。 3. 糸巻き軸が下糸を巻いたあとにもどっていない。（糸巻き状態になっている） 4. フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを押している。	4 ページ参照 43 ページ参照 13 ページ参照 4 ページ参照
音が高い	1. かまの部分に糸くすが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。	43 ページ参照 43 ページ参照

※ 静かな部屋で使うと、「ウーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、めい作業上はとくに問題ありません。（故障ではありません。）

※ 長時間使うと、表示窓と選択ボタンの部分の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、めい作業上はとくに問題ありません。（故障ではありません。）

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	50W (ランプ：12V 5W)
外形寸法	幅 41.3cmX 奥行 18.3cmX 高さ 29.6cm
質 量	7.7kg (本体)
使用針	家庭用 HA X 1
ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時：毎分 820 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より 1 年間）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間の基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は、お買い上げの販売店または下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

お客様相談室

住 所： 〒193-0941 東京都八王子市狹間町 1463 番地
 電 話： 0120-026-557（フリーダイヤル）
 042-661-2600
 受 付： 平日 9:00～12:00 13:00～17:00
 （土・日・祝日・年末年始を除く）
 ホームページ： <http://www.janome.co.jp>
 メールでのお問い合わせ： customer@gm.janome.co.jp

